

dCS

VIVALDI

ONE

Digital Playback System
V1.1x

取扱説明書



株式会社 太陽インターナショナル

〒103-0027 東京都中央区日本橋2-12-9

日本橋グレイス 1F

Tel : 03-6225-2777 Fax : 03-6225-2778

<URL>

<http://www.taiyo-international.com>

目次

ご使用になる前に（安全にお使いいただくために）	5
[設置上のご注意].....	5
[お手入れについて].....	5
初めてのヴィヴァルディ ONE	6
梱包	6
安全のための注意	6
AC電圧設定	6
電源ケーブル.....	6
メインコンディショナー	6
接続ケーブルについて	7
[デジタル]	7
[アナログ]	7
設置	7
演奏可能ディスク	8
演奏不可能ディスク	8
セットアップガイド	9
最初に.....	9
[セルフチェック].....	9
STEP 1：アナログ出力を接続する	10
[プリアンプを使用する].....	10
[パワーアンプにダイレクトに結線する].....	10
[バランス出力]	10
STEP 2：UPnPネットワーク接続.....	11
[汎用性].....	11
[基本的な設定].....	11

[Air Play で音楽を演奏する].....	17
[Spotify を接続して使用する]	17
[ライセンス]	17
[Tidal を使用する].....	17
[Roon を使用する].....	17
[MQA ファイルの演奏].....	18
STEP 3 : ヴィヴァルディONEのPCM入力を使用する.....	19
[デュアルAESソースを接続する].....	19
[シングルAES、またはSPDIFソースを接続する].....	19
STEP 4 : CD/SACD演奏.....	21
[アプリからCD演奏をコントロールする].....	22
STEP 5 : USB 1 インターフェイスとコンピューター.....	23
[互換性].....	23
[USBオーディオクラスを設定する].....	23
[Windows専用ドライバーをインストールする].....	23
[PCとの基本設定]	24
[音楽演奏ソフトについて]	24
[ヴィヴァルディONEをオーディオ出力デバイスに].....	25
[Mac OSX]	25
[Windows10 Windows8.1Windows7]	25
STEP 6 : USB 2 入力を使用する	26
[USBフラッシュドライブから音楽ファイルを演奏する].....	26
STEP 7 : クロッキング	27
[ヴィヴァルディクロックを使用する].....	27
[提案].....	28
[入力構成をカスタマイズする]	29
[ヴィヴァルディONE の名称].....	30
 フロントパネル	 31
ディスプレイ・ネットワークレンダラー	31
CD/SACD演奏のディスプレイ.....	32
ディスプレイ DAC モードの場合	33
リモートコントロールレシーバー	34
ディストレイ	34
コントロールモード.....	34

Stop/Eject（停止、イジェクト）ボタン	34
Play/Pause（プレイ、ポーズ）ボタン	35
Pwd（巻き戻し）ボタン	35
Fwd（早送り）ボタン	35
Input（入力）ボタン	35
Menu（メニュー）ボタン	36
ロータリーコントロール	37
 リアパネル	 38
AES デジタル入力	38
SPDIF 入力	39
USBインターフェイス	39
ワードクロック入出力	39
ネットワークインターフェイス	40
赤外リモートレシーバー	40
RS232	40
AC入力	40
ラベル	40
 メニュー	 41
メニューを使う	42
INFORMATION（情報）メニュー	43
オーディオ設定メニュー	44
ヴィジュアルディONEの設定	46
コンフィギュレーションメニュー	48
ディスプレイ設定メニュー	50
発信メニュー	50
 dCS リモートコントローラー	 51
ソフトウェアアップデート	52
 SPECIFICATION	 53
問い合わせ先	56

ご使用になる前に（安全にお使いいただくために）

本機をご使用になる際には、安全上のご注意をよくお確かめ下さい。

以下の注意事項は安全にお使いいただくために大切な内容です。必ず守るようにして下さい。



警告：誤って取り扱うと、死亡や重傷などに結びつく可能性があります。



注意：誤って取り扱うと、傷害または物的損害などの発生に結びつく可能性があります。

【設置上のご注意】



警告

- ・定格電圧 A C 100Vにてご使用下さい。
- ・付属の A C 電源ケーブルは、本機専用ケーブルですので他の機器に使用しないで下さい。
- ・ケーブル等の接続はこの取扱説明書に従って確実に行って下さい。不完全な場合には接触不良を招き、火災の原因になります。
- ・ A C 電源ケーブルをコンセントから抜くときは、プラグを持って抜いて下さい。コードを無理に引っ張ったりして抜くと断線または接触不良を招き、感電や火災の原因になります。
- ・ A C 電源ケーブルを無理に折り曲げたり、引っ張ったり、ねじったり、継ぎ足す等の加工は行わないで下さい。火災や感電の原因になります。
- ・本機の改造や部品の変更は絶対しないようにして下さい。火災や感電、故障、ケガの原因になります。
- ・水など塗れた手で電源ケーブルを抜き差ししないで下さい。感電の原因になります。
- ・本機内部に水をこぼしたり、ピン等の金属類を入れないで下さい。感電や火災の原因となります。
- ・万一、煙が出たり変な臭いがするなどの異常状態が起きた場合は、すぐに A C 電源ケーブルを抜き、異常状態がおさまったことを確認してからお買い求めの販売店、または当社サービス課まで修理を依頼して下さい。そのまま使用すると、火災・感電の原因になります。



注意

- ・本機を設置する際にはこの取扱説明書に従って確実に行うようにして下さい。
- ・本機の取り出し、及び設置する際には細心の注意をし、慎重に行うようにして下さい。落下等でケガや物損を招く原因になります。
- ・湿度の多い場所で使用しないで下さい。結露等により故障の原因となります。
- ・ゴミやホコリの多い場所では使用しないで下さい。
- ・室内温度が 5℃～40℃の範囲でご使用下さい。
- ・振動が多く、水平でない場所には設置しないで下さい。機器の落下等でケガや物損を招く原因になります。
- ・オーディオラック等に納めてご使用になる場合、通風をしっかりと取るなど熱のこもりには充分注意して下さい。故障の原因になる場合があります。

【お手入れについて】

- ・本体の汚れは、柔らかい乾いた布（シリコンクロス等）で軽く拭き取ってください。ベンジンやシンナーなど揮発性の薬品のご使用は、絶対におやめください。本体の表面が変質する恐れがあります。



注意

- ・リアパネルの端子等のお手入れの際には、必ず A C 電源ケーブルを抜き電源をお切り下さい。感電の原因となることがあります。

初めてのヴィヴァルディ ONE

使用前に本項および「セットアップガイド」(P.9) をぜひお読みください。効率的かつ安全にシステムを設定するのに役立ちます。

dCS製品は必要に応じてソフトウェア・アップデートを行っています。本機はCD-ROMによって、ご自身でアップデートできるように設計されています。ソフトウェアが更新された際にはご案内しますので、ユーザー登録を行っていただきますようお願い致します。

梱包

本機の梱包には下記の物が入っています。

- ・ヴィヴァルディONE本体
- ・取扱説明書
- ・保証登録書
- ・パワーケーブル
- ・イーサネットケーブル
- ・USBケーブル
- ・ヒューズ×2 (スペア)
- ・dCSリモートコントロールハンドセット
- ・クロス

上記リストに照らし合わせて内容を点検ください。損傷があったり、部品の欠品があった場合にはすぐに販売店にお知らせください。本機の梱包材は箱を含め保管くださいますようお願いいたします。

本機の保証カードは保証登録書での登録後、お手元にお届けいたします。

安全のための注意

本機のサービス用パーツは供給されておりません。内部には高圧電流が流れている箇所もあり、ユーザーご自身で本体の分解、または内部を開けることなどは危険です。本機自体が不具合である場合には販売店、または当社にご相談ください。

A C 電圧設定

初めて本機をセットするとき、ご使用の電圧と合致しているか再度ご確認ください。本機は50/60サイクルどちらにも対応します。リアパネルのA C 入力部の下に電圧表示があります。万一ご使用の電圧と表示が異なる場合には決して本機をご使用しないで下さい。電圧が異なる場合、本機に致命的な損傷を与える可能性があり、保証の対象外となります。また電圧変更をご自身でなさらないでください。

電源ケーブル

常識的なA C ケーブルをご使用ください。一部のオーディオファイル用パワーコードは必要以上に重く、入力部を破損しかねません。保証対象外となりますので、十分ご注意ください。

メインコンディショナー

メインコンディショナー、クリーン電源等の使用は推奨いたしません。メインコンディショナー、クリーン電源等の使用によって本機が故障した場合、保証対象外となりますのでご注意ください。

接続ケーブルについて

[デジタル]

デジタルインターフェイスについては、デジタルオーディオ用にきちんと設計されているケーブルをご使用ください。

- ・ AES/EBUインターフェイスには110Ω、ツイステッドペア、XLR(M)-XLR(F)コネクタをご使用ください。
- ・ SPDF、ワードクロック、またはSPDF BNCインターフェイスには75Ω コアキシャルBNCケーブルをご使用ください。
- ・ SPDF RCAインターフェイスには75Ω コアキシャルRCAプラグで端末処理されたケーブルをご使用ください。
- ・ TOSリンクオプティカルインターフェイスにはTOSリンク光ファイバーケーブルをご使用ください。
- ・ USBには標準のUSB2（タイプA-タイプB）ケーブルをご使用ください。内部スクリーンは両端に接続されているものをご使用ください。



SDIF、クロック用に使用するケーブルはシンプルなDCカップルド接続のインターフェイスケーブルが必要です。コンデンサーを介在させたケーブル、ネットワークがビルドインされたケーブルをご使用になりますと、誤動作したり場合によっては全く動作しないことが報告されております。

[アナログ]

アナログ出力については、オーディオ用にきちんと設計されているケーブルをご使用ください。

- ・ バランス端子(XLR)には、ツイステッドペア、XLR(M)-XLR(F)コネクタをご使用ください。
- ・ アンバランス端子(RCA)には、コアキシャル、RCAプラグで端末処理されたケーブルをご使用ください。

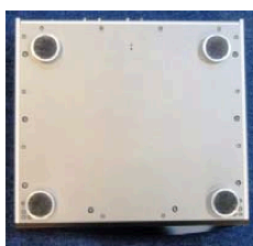


コネクタを破壊する恐れのあるような重量のあるケーブル、もしくは非常に強く柔軟性のないケーブルなどの使用は控え下さい。

設置

ヴィヴァルディシリーズ機器は積み重ねて使用することは可能ですが、各ユニットの共振を抑える為には一台ずつラックで使用することをおすすめいたします。他のシステムとの接続にはケーブル類はある程度の余裕を持って接続してください。またオーバーヒートを防ぐために本機の周囲には適度なスペースを空けることを心がけてください。

本機には4本のベースフィートによって支持されています。3点支持をお好みの場合には、後側の脚部2本を図1のように反時計回りに回し取り外します。図2の脚部のネジを2.5mm六角レンチで外して、リアパネルに近い中央部分に移動します。脚部のボルト状のネジ穴に慎重にねじ込んでください。



演奏可能ディスク



市販のCDは次の条件を満たすものについては演奏可能です。

- ・ 12cm, 8cmの円形ディスク
- ・ リニアPCMデジタルオーディオデータによる録音のもの
- ・ CD ロゴが印刷され、レッドブック規格により録音、製造されたもの



市販のSACD, ハイブリッドSACDは次の条件を満たすものについては演奏可能です。

- ・ 12cm, 8cmの円形ディスク
- ・ SACD層がDSDデジタルオーディオデータによる録音のもの
- ・ SACD ロゴが印刷され、スカーレットブック規格により録音、製造されたもの

CD-R CDフォーマットのオーディオデータで記録されたCD-RまたはCD-RWディスクは再生できるかもしれませんが、ソフトウェア、ディスク、ディスクに焼き込む場合のバーナーなどによって演奏ができない場合があります。同様に、DVD-RにSACDイメージで焼き込んだディスクは演奏可能の場合もあります。不具合等起きてても責任は負えませんのでご了承下さい。

CD-RW

演奏不可能ディスク

下記のディスクを使用して不具合等起こった場合は責任を負えません。

- ・ 傷、汚れ、湾曲したディスク
- ・ プリントブルディスク、ラベルの張ったディスク
- ・ 円形ではないディスク
- ・ DVD, CD-G, CD-EXTRA, PHOTO CD, CD-ROM, DVD-ROM
- ・ CDフォーマット以外のフォーマットで録音されたデジタルディスク（FLAC, WAVファイルなど）
- ・ レッドブックCDまたはSACD規格に合致しないコピーコードディスク。

※CDロゴがついていても、規格外のフォーマットで制作されたディスクが存在しています。このような演奏が出来ない、または、正しく演奏できないCDについてはCD販売元にご相談下さい。

セットアップガイド

この項は基本的な動作を行うためのセットアップガイドです。

[表示、フォントの意味]

この取扱説明書で使用されている文字色は、下記の内容を示しています。

- ・ **青** : コントロールとコネクタについての記載
- ・ **ピンク** : メニュー、またはセッティング
- ・ **グリーン** : ディスプレイ表示

最初に

メニュー・セットアップガイドシートはメニューツリーを表示し、一般的なセットアップをご説明します。

デジタル接続を行いますので、デジタル用のケーブルをご使用下さい。

- ・ AES/EBUのケーブルはインピーダンスが110Ωの専用デジタル信号用ケーブルをご使用下さい。
- ・ SDIF、クロック、SPDIF BNCのケーブルにはインピーダンスが75Ωの専用デジタル信号用ケーブルをご使用下さい。
- ・ トスリンク にはトスリンク用の光ファイバーケーブルを使用します。
- ・ トランスポート リアパネルのAC 入力にAC コードを接続します。



SDIF、クロック用に使用するケーブルはシンプルなDCカップルド接続のインターフェイスケーブルが必要です。市場にはコンデンサーを介在させたケーブル、内蔵のネットワークを備えたケーブルなどがありますが、このようなケーブルをご使用になりますと、誤動作したり、場合によっては全く動作をしないことが報告されております。ご注意ください。

[セルフチェック]

リアパネルAC入力部にあるスイッチを **I** の位置になるようにスイッチを入れます。次にフロントパネル**POWER**ボタンを押すと以下の画面がディスプレイに表示されます。



約30 秒間で本機はセルフチェックを行います。もし、本機が通常では無い状態に設定するようでしたら、工場出荷時のルーティンを次のように進んで行ってください。

Menu, ▶, ▶, ▶, Menu, ◀, ◀, Menu

数秒の後、本機は自動でリセットを行います。

STEP 1: アナログ出力を接続する

以下のどちらかを選択します。

[プリアンプを使用する]

- ・ プリアンプのボリュームコントロールを低くします。
- ・ バランス、RCA シングルエンドのどちらかを使用しプリアンプの入力と結線します。
- ・ ローターリコントロールを時計方向に回し、**Volume** を最大にします。ディスプレイには**-0.0dB** と表示されます。
- ・ プリアンプのボリュームをお好みのレベルに上げます。適当なリスニングレベルで、プリアンプのボリューム設定の位置が**-10.0**より高いか、**-30.0**より低い場合には、出力設定を変更してみてください。その場合は以下の得用にメニューから変更します。

Menu, ▶, ▶, Menu, ▶, Menu

[パワーアンプにダイレクトに結線する]

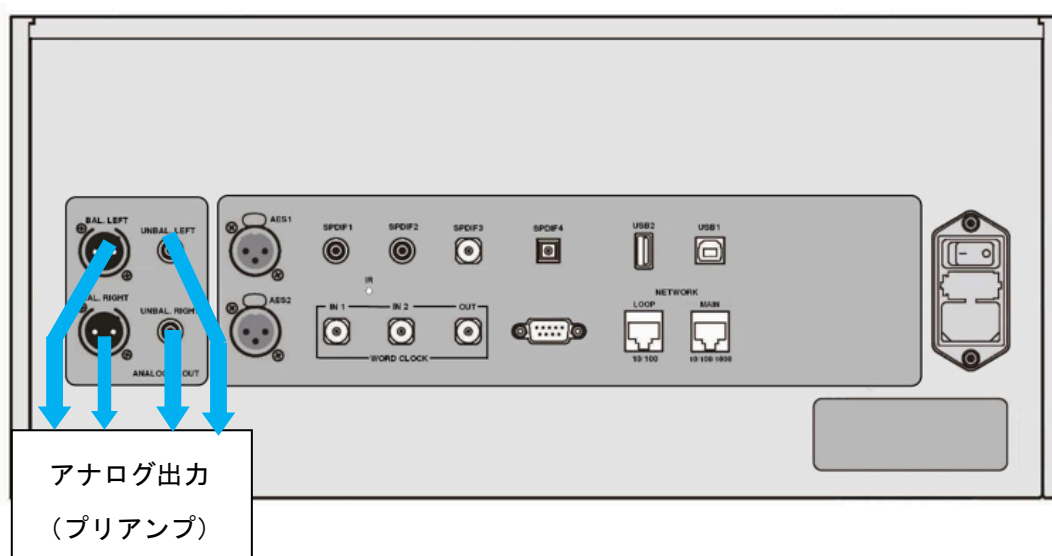
- ・ DAC のロータリーコントロールを反時計回りにまわし、**Volume** をディスプレイ表示**-40.0dB** くらいまで下げます。
- ・ バランス、RCA シングルエンドのどちらかを使用しパワーアンプの入力と結線し、パワーアンプをオンにします。
- ・ プレイヤーのロータリーコントロールをゆっくりと時計方向に回して適切な音量レベルにします。
- ・ 適当なリスニングレベルで、プリアンプのボリューム設定の位置が**-10.0**より高いか、**-30.0**より低い場合には、出力設定を変更してみてください。その場合は以下の得用にメニューから変更します。

Menu, ▶, ▶, Menu, ▶, Menu

[バランス出力]



バランス出力に関して、ヒスノイズ、不安定なレベル、両チャンネルからの音に厚みがない等の連絡がdCS によせられることがあります。多くは、DAC のバランス出力をXLR コネクターで3 ピンを浮かせた状態でパワーアンプにアンバランス入力させている場合に起こります。このようなときはピン3 をピン1（グランド）と接続し、完全な信号経路を得ることが必要です。その他には、ケーブル自体の内部での問題もあります。



ヴィヴァルディ ONE は 出力はバランス、アンバランスとも独立していますので、2 機の異なるアンプに接続することも出来ます。

STEP 2 : U P n P ネットワーク接続

U P n P(ユニバーサル プラグアンドプレイ) はネットワークオーディオのために設計されたプロトコルです。ヴィヴァルディONE はU P n P AV プロトコルに従って設計されています。このプロトコルに従って設計されているdCS 以外のデバイスとの接続、動作ができます。

ネットワークストリーミングシステムは3 つの標準U P n P コンポーネントによって作られます。U P n P コントロールポイント、U P n P レンダラー、U P n P サーバーです。場合によってはこのコンポーネントが増えることもあります。このようなシステムでは、歌、トラック、ビデオなど、すべてのメディアがサーバーに保管されます。その保管デバイスはN A S 又はコンピューターとなります。タブレット、スマートフォンなどのワイヤレスコントロールポイントは例えば、N A S ドライブなどのメディアサーバーの特定のアドレスを要求してきます。サーバーはアドレスをレンダラー（この例では、ヴィヴァルディ ONE）に送ります。レンダラーはアドレスが指定されたサーバーから直接アイテムを取り込みます。そして、ネットワークを通じてサーバーから受け取ったメディアをデコードし演奏します。

ヴィヴァルディONEをネットワークストリーミングで作動させようとするには、標準のネットワークインフラが整っていることが条件です。ネットワークの詳細についてはこのマニュアルでは触れません。が、最低限次の機器が必要です。

ルーター、コンピューター、ヴィヴァルディONE、NAS, WAP(ワイヤレス アクセス ポイント)、ワイヤレスコントロール。

関連機器を繋ぐイーサネットケーブルが必要です。また、NASはU P n Pメディアサーバーソフト（例えば、Twonky, Asset, MinimServerなど）がインストールされていなければなりません。

NASドライブ（音楽サーバー）にMelco DELA をご使用の場合、Minim Server ソフトウェアとの相性が良いとのレポートがユーザーから寄せられています。

U P n P コントロールポイントがメディアサーバー、またはU P n P レンダラーを見つけることが困難な場合、ルーターの中のI G M P スヌーピングを動作しないようにするか、またはルーターかN A S ドライブの中のU P n P discovery mode を動作するように設定する必要があるかも知れません。

[汎用性]

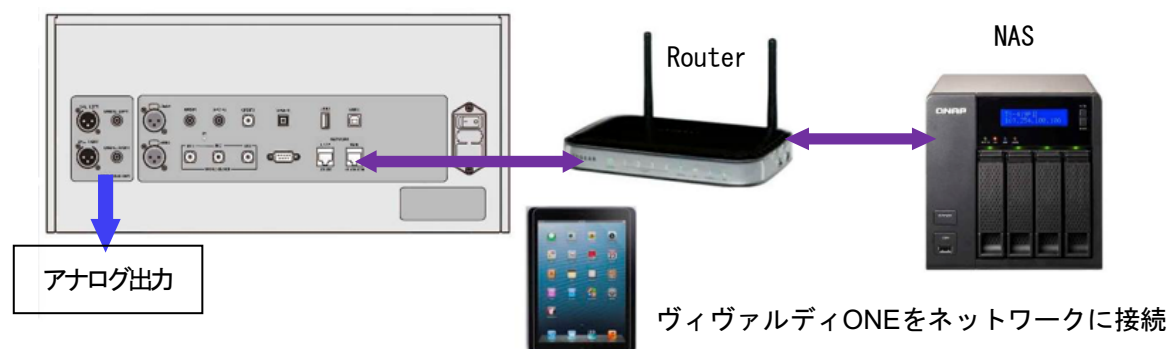
ヴィヴァルディONEとアプリは次の機器との互換性があります。

- iPad 2 以降。
- iPhone 5 以降。
- iPod Touch 5 世代以降。

Vivaldi 2.0 アプリ バージョン1.4.4 はiOS1で実証済みです。

[基本的な設定]

以下のように接続してください。

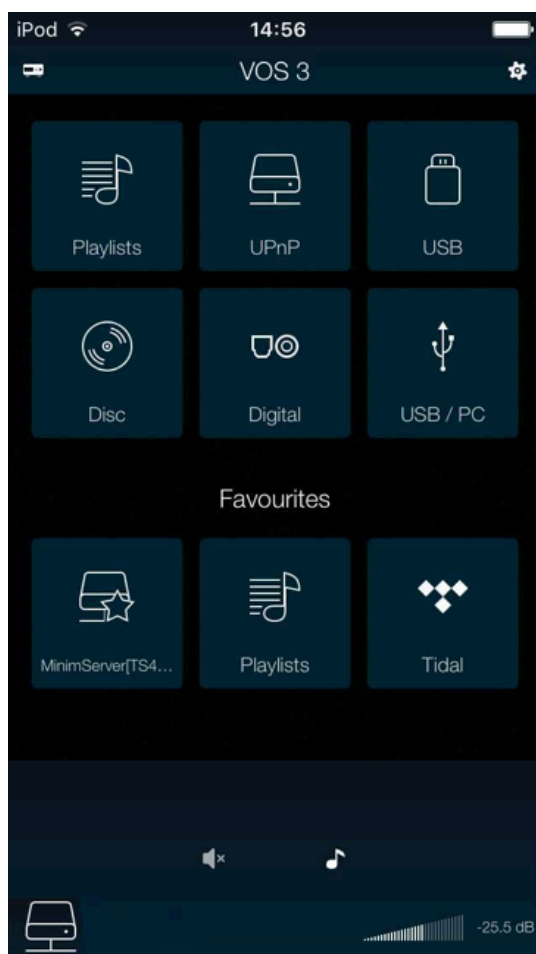


- ・ アプリストアからdCS Vivaldi 2.0 v1.4.8以降のアプリを iPad / iPhone / iPod にダウンロードしインストールします。
- ・ プレイヤーのネットワークメイン入力インターフェイス（**Network Main**）とイーサネットネットワークに接続します。
- ・ iPadなどのコントロールデバイスをネットワークに接続します。
- ・ ヴィヴァルディ 2.0 アプリを立ち上げます。

- ・ システムはヴィヴァルディONEを探し始めます。**Configure** (コンフィグ) をタップして、プレイヤー設定の変更、本機の情報、テスト機能を使ったりします。**Preferences** (好みの選択肢) をタップして、ご使用の条件に合うようにしましょう。Spotify, Tidal をお気に入りに登録することもできます。



- ・ プレイヤーの図をタップしてホームページへ移動します。

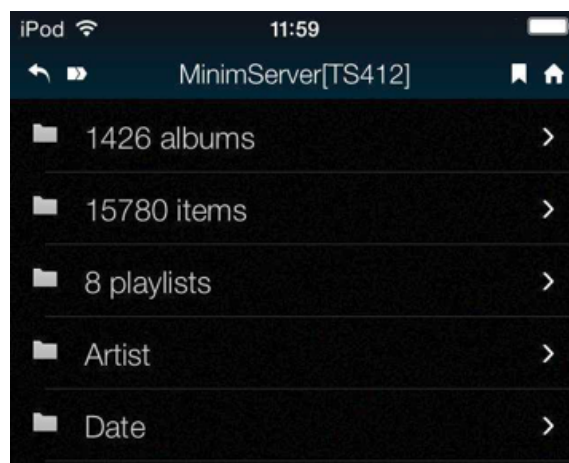


左下にあるこのアイコンは入力を表示します。この場合はネットワークです。

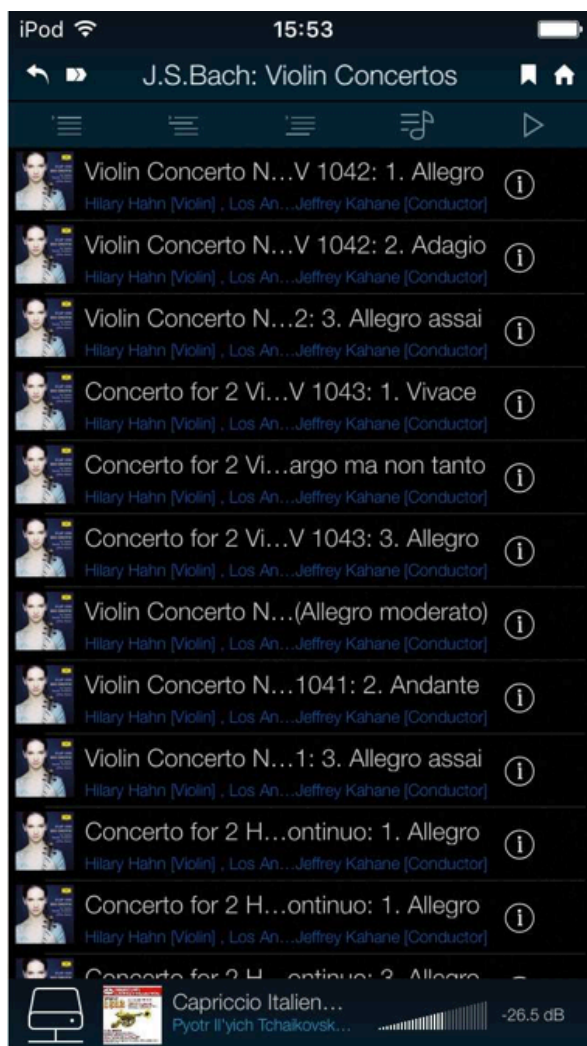
U P n P をタップして同じネットワークのNASを選択します。(または、**USB 2** をタップして、**USB 2** ポートに接続しているフラッシュドライブを選択)



- ・ Server をタップして選択する
- ・ ブラウズ方法を選択します。(アルバムアーティストなど)



トラックリストを閲覧



- ・ **All Tracks** (全てのトラック) を選択してアルバムを演奏するか、**Selected Tracks** (トラックを選択) して演奏します。
- ・ 以下のボタンをタップします。



キュー (Queue) をキャンセルして今、演奏する。



キュー (Queue) のスタートを追加する



現在のトラックの後にキュー (Queue) を追加する



キュー (Queue) の最後に追加する



プレイリストに追加する



トラックが演奏をスタートするとプレイヤーネットワークが自動的に選択されます。



前のページに戻りたい場合にはバックアイコンをタップします。



ホームに戻りたい場合にはホームアイコンをタップします。



現在演奏中のトラックを見たい場合にはスクリーンの一番下にあるプレイアイコンをタップします。



ブックマークアイコン (お気に入り) をタップすると戻りたい時に戻れるサーバー位置を保存します。



このアイコンをタップするとブックマークのリストを表示します、リスト上のブックマークをタップしてそこに行きます。

現在のトラック



トラックのシャッフル



トラックのリPEAT

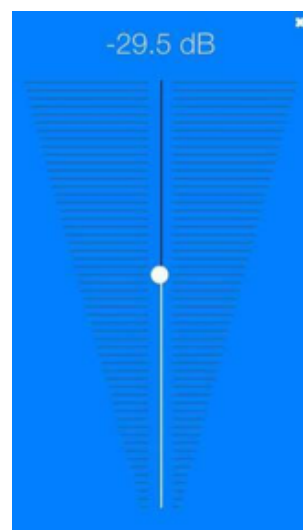


フェイズ変更



ボリュームの調整

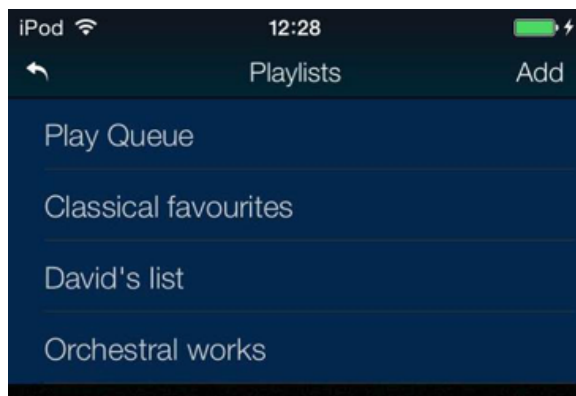
スライドボリューム調整も設定できます。白い **X** をクリックしてボリュームパネルを閉じます。



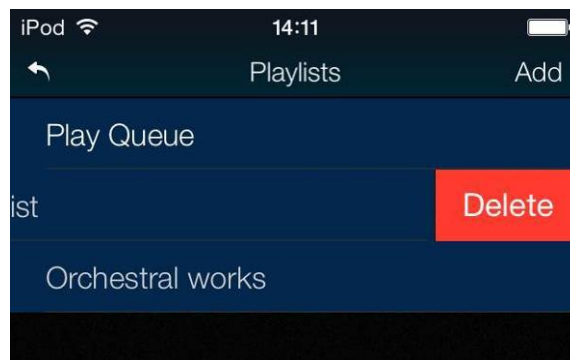
ここをタップするとプレイリストページ **Play Queue** にいきます。



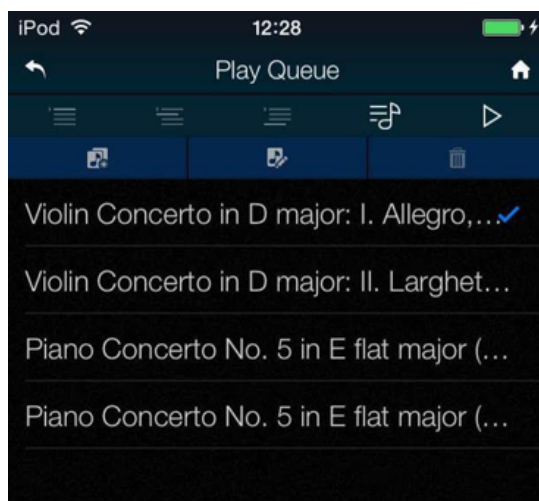
ホーム **Home** と **Playlists** をタップして **Playlists** ページへいきます。



リストか、**Play Queue**（プレイキュー）をタップして開きます。



プレイリストをデリートするには左に向けてスワイプして、**Delete**（デリート）をタップします。



トラックを選択し、**Play**（プレイ）アイコンをタップして演奏開始します。



これをタップすると新しいプレイリストとしてプレイキューを保存、名称をタイプした後に **OK** をタップします。



プレイキューまたはプレイリストを開いて編集を開始するには、このアイコンをタップします。

トラック順序を変更するには新しい位置にトラックをドラッグします。



トラックをリストからデリートするにはデリートするトラックを選んでこのアイコンをタップします。



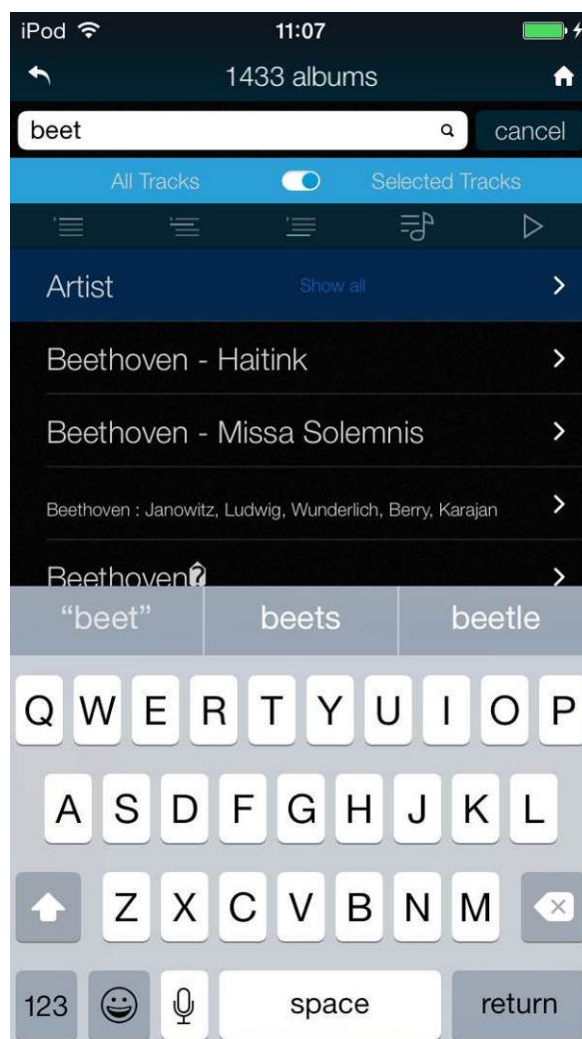
リスト編集を終えたら、ハイライトされた編集アイコンをもう一度タップします。

アルバム、アーティスト、またはトラック をブラウズしている間に、リスト内のテキストを検索できます。アルバム、アーティスト、またはトラック をブラウズしている間に、リスト内のテキストを検索できます。

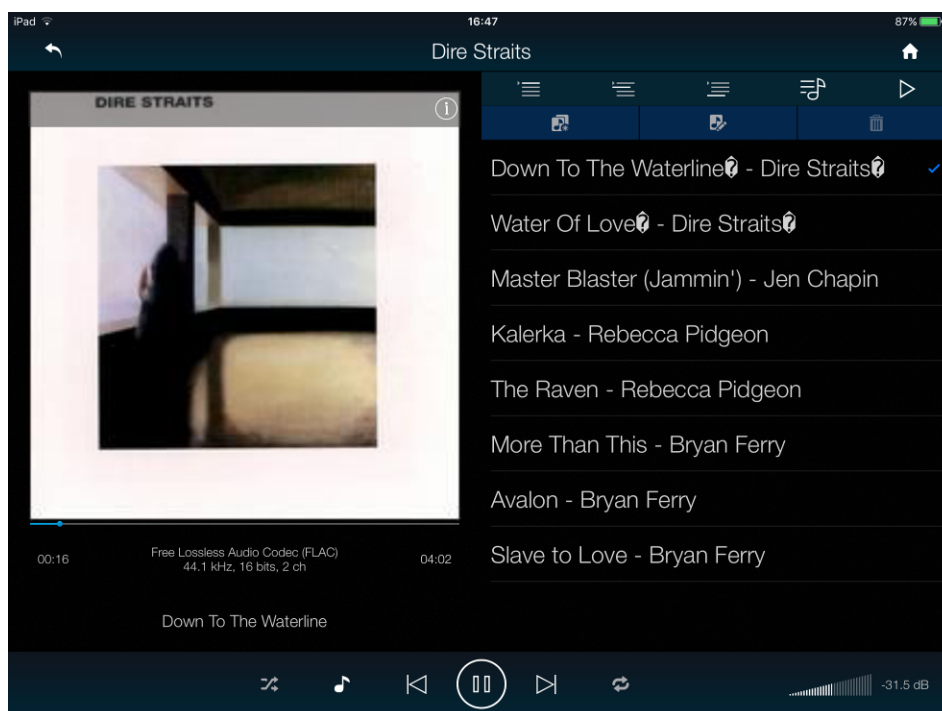
検索アイコンをタップするとキーボードが出ます。



検索したいテキストを(またはその一部)をタイプします。広範囲な音楽ライブラリーが出てきたら、検索には時間が少しかかるかもしれません。辛抱してください。二度文字をタイプしないようにご注意ください。検索にマッチするエントリーがディスプレイされたら、リストの中で下方向にドラッグしてキーボードを閉じます。希望のトラックを選択し、演奏するまたは、プレイリストに追加します。



現在のiPad アプリのランドスケープモードトラックスクリーンでは、アルバムアート、メタデータ、プレイバックコントロール、プレイキューを表示します。



[AirPlay で音楽を演奏する]

プレイヤーがネットワークに接続しているときには、Apple のデバイスからAirPlay 経由してプレイヤーでストリーミングすることができます。Airplay が動作しているときにはプレイヤーの **Network**(ネットワーク)入力は自動的に選択されます。




低入力レベル設定はAirPlay 使用時、アンプをDAC から直接ドライブする際に事故を防ぐ目的で加えられました。(AirPlay の出力は高出力なので。)

[Spotify を接続して使用する]



Spotify はきわめて多くの音楽を聴くことができます。演奏家、最新のヒット曲、ご自身のための新しい発見等々。

Spotify ユーザーであれば、Sprotify App を使用してプレイヤーをコントロールすることができます。

1. アップサンプラーをご使用のiPhone と同じWiFi ネットワークに接続するか、または、Spotify アプリの入ったPC かタブレットに接続します。
2. Spotify app を開き、曲を演奏します。
3. スクリーンの下の曲のイメージをタップします。
4. 接続アイコンをタップします。
5. リストからVivaldi Upsampler を選びます。

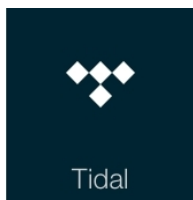
Spotify 接続についての使用法、設定方法についての詳しい情報は以下のウェブでお願いします。
WWW.spotify.com/connect

[ライセンス]

サードパーティーライセンスについては以下にあります。

www.spotify.com/connect/third-party-licenses

[Tidal を使用する]



Tidal アカウントをお持ちの場合には、アプリに進み、**Configuration > Online Service > Tidal** と進みます。アカウント詳細を入力し、**Add** をタップします。**Preference > Favourite Inputs** ページで**Tidal** をチェックしていることを確認してください。ホームページは進んで、Tidal パッドをタップしてTidal を通じてインターネットの音楽にアクセスします。Tidal のプレイリストを作るには、Tidal アプリを直接使用してください。

www.tidal.com

[Roon を使用する]



v2.01 は Roon Ready です。Roon のアカウントをお持ちの場合には Roon サーバーを NAS ドライブか PC にインストールする必要があります。そうすると、Roon リモートによってプレイバックコントロールができます。Roon はある程度パワフルなプロセッサを要求します。NAS ドライブを選択するときには、. Roon ウェブサイトをチェックしてください。

[MQA ファイルの演奏]



MQA(Master Quality Authenticated=マスター品質保証)はオリジナルのマスター録音をお届けするという英国の技術です。マスターMQA ファイルはマスター録音をそのままに、ストリーミングやダウンロードに十分見合う軽量のファイルにしてお届けするものです。

MQA ロゴは、MQA 社の商標で、ライセンス協定したところでしか使用が許されておりません。

MQA 自体についての詳しい情報は www.mqa.co.uk をご覧ください。

ヴィヴァルディ・ONE v1.1x は完全な MQA デコーダーが搭載されています。



MQA ファイルは、Tidal Masters の様な **Network** (ネットワーク) を経由するビットパーフェクトのストリーミング、または **USB2** インターフェイスで展開され、オリジナルサンプルレートとなるファイルです。標準の **MQA** アイコンは、デコードされたサンプルレートと一緒にディスプレイに表示されます。



このロゴは MQA スタジオファイルが演奏されている時に表示されます。他のデバイスによって開かれた 24/88.2 または 24/96 のデータで **USB1**、**AES**、**SPDIF** インターフェイスにビットパーフェクトで提供されたデータもオリジナルサンプルレートで表現されます。

MQA 演奏を行っている時に、MQA ストリーミング タイプがコントロールアプリの「Now Playing」で分かります。



グリーンドットがついたアイコンは標準 MQA を演奏している時に表示されます。



ブルードットがついたアイコンは MQA スタジオファイルが演奏されている時に表示されます。



オリジナルの MQA ファイルが変更されていた場合には MQA デコードは不可能です。MQA ロゴが現れるべき場合に表示されなければ、ストリーミングプログラムの DSP 機能を無効にしてみてください。

STEP 3 : ヴィヴァルディONEのPCM入力を使用する

ヴィヴァルディONEは多くのソースからデータを受け容れられるように標準 PCM入力が6系統用意されています。



ワードクロック入力端子が装備されていない機器からAES, SPDIF経由でデータを演奏する場合には、入力をオーディオシンクロに設定します。マスタークロックとロックさせることは試みないでください。

ソース機器をオンにする。ディスク、テープ、ファイルなどをロードして、ソース機器をプレイモードにします。(デジタルオーディオデータを流すことを確認します)

以下のどちらか、または両方を選択します。

[デュアルAESソースを接続する]

- 接続したソース機器がデュアルAES動作を行うことが可能かをチェックし、正しく設定してください。その場合はdCS SACDトランスポートか、dCS アップサンプラーか、音楽サーバーのどれかでしよう。



以下の順にボタンを押します。 **Menu, ▶, ▶, ▶, Menu, ▶** そして、メニューページからユニットをデュアル AES に設定します。 **Unit Settings > Dual AES**

Menu ボタンでオートデュアル AES 設定 (**Auto**)を確認します。

- 接続するソース機器のAES 1 (もしくはAES A)出力を本機の**AES 1**入力に、また、AES 2出力 (もしくはAES B)を本機の**AES 2** 入力に2本のAES/EBUケーブルで接続します。ソース機器の出力が本機の入力とスワップ (AES 1 → AES 2というように) されていないことを確認してください。

Input(入力) ボタンで **AES1** 入力を選択する。



もし、このアイコンが表示されなかった場合は、メニューを開き本機の設定を選択以下のように設定します。 **Unit Settings > Sync Mode > Audio Sync.**

プレイヤーはソースにロックされ、自動的に**AES1+2**を選択し、ディスプレイには、例えば**24/352.8**とソース機器が送り出すフォーマットが表示されます。

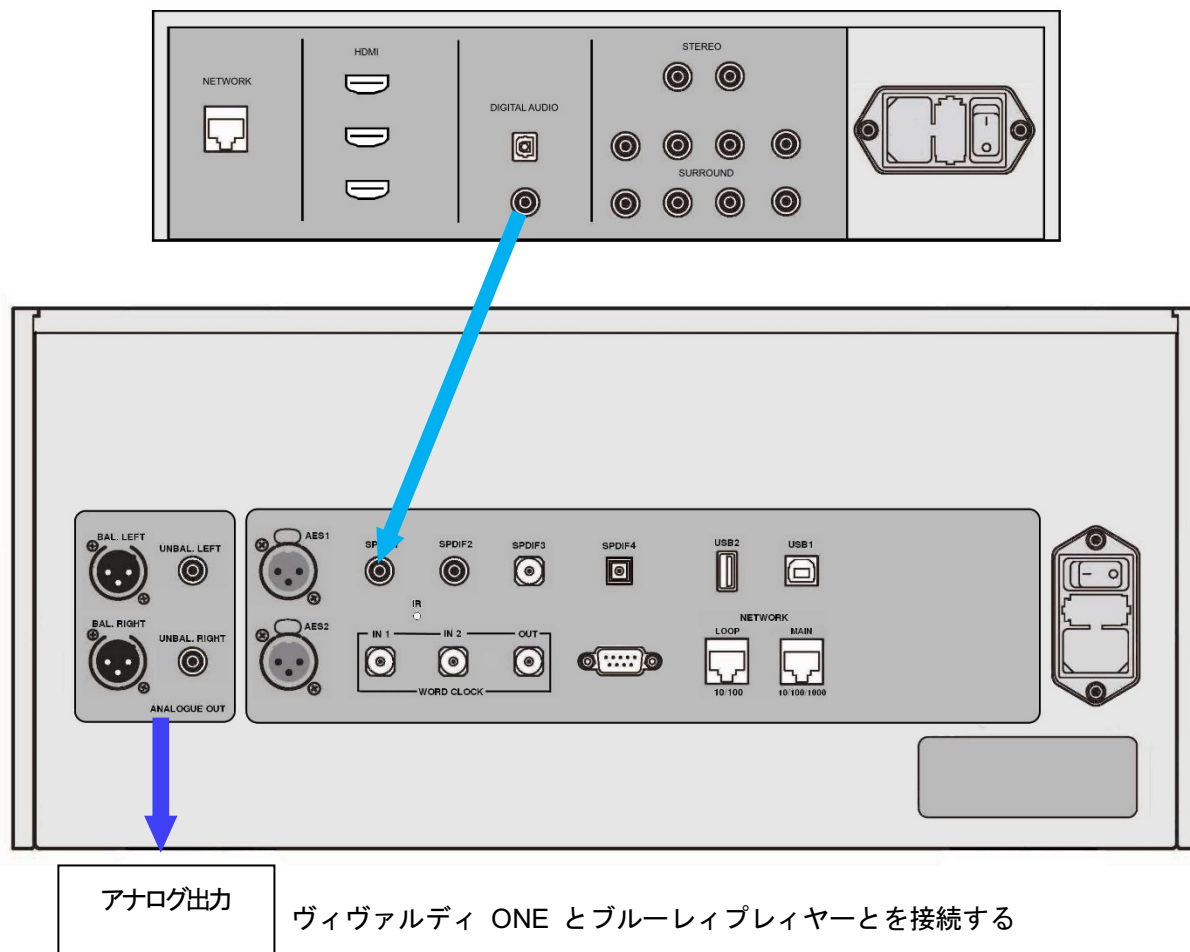
[シングル AES、または SPDIF ソースを接続する]

- CD トランスポートや DCD プレイヤーなどのソース機器はシングルワイヤーデジタル出力が可能です。端子は次のどれかでしよう、**AES1, AES2, SPDIF1 (RCA), SPDIF2 (RCA), SPDIF3 (BNC) or SPDIF4 (Toslink).**



もし、このアイコンが表示されなかった場合は、メニューを開き本機の設定を選択以下のように設定します。 **Unit Settings > Sync Mode > Audio Sync.**

プレイヤーはソースにロックされ、ディスプレイには、例えばCD プレイヤーの場合には**16/44.1**というフォーマットが表示されます。



入力名称が変更されている場合には、標準名称は表示されません。

なぜプレイヤーは0ビットと表示するのですか？



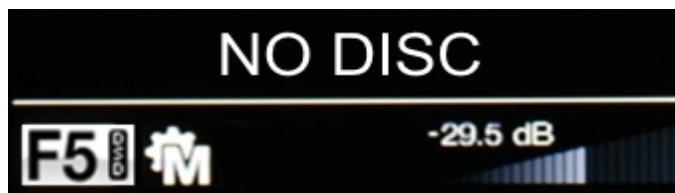
その場合でもプレイヤーは正常に動作しています。ソース機器が接続されているが演奏状態では内場合には、データは届きません。デジタルサイレンスという状態です。プレイヤーはアクティブデータビットが0と正確に表示するわけです。ソース機器が演奏状態に入るとアクティブビット数を感知して表示します。0 ビットはトラックとトラックの間に表示されることもあります。



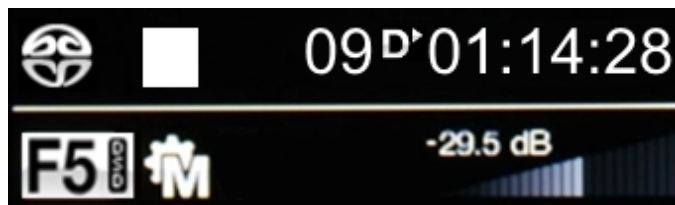
デジタル入力をアプリのホームページから選択することもできます。**Digital** (デジタル) を選択します。

STEP 4 : CD/SACD演奏

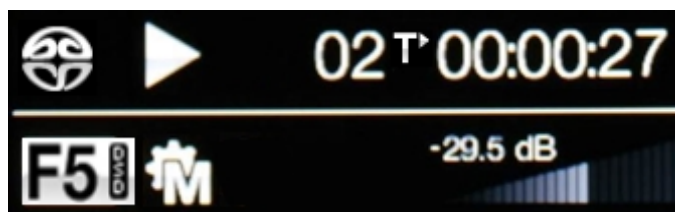
- ・ 入力(**Input**) ボタンによって、ディスクモード(**Disc**)を選択



- ・ **Stop/Eject** ボタンを押してトレイを開きます。ディスプレイは **OPEN** と表示。
- ・ ディスクラベルを上にしてトレイに載せ、Stop/Eject ボタンを押します。
- ・ ディスプレイは **CLOSING** と表示し、続いて **READING TOC** (Table Of Contents) と表示します。プレイヤーがディスクを読み込むまで待ちましょう。
- ・ ディスクのタイプが識別され、CD または SACD のロゴがトラック番号、総演奏時間がディスプレイに表示されます。



- ・ **Play/Pause** ボタンを押して演奏します。

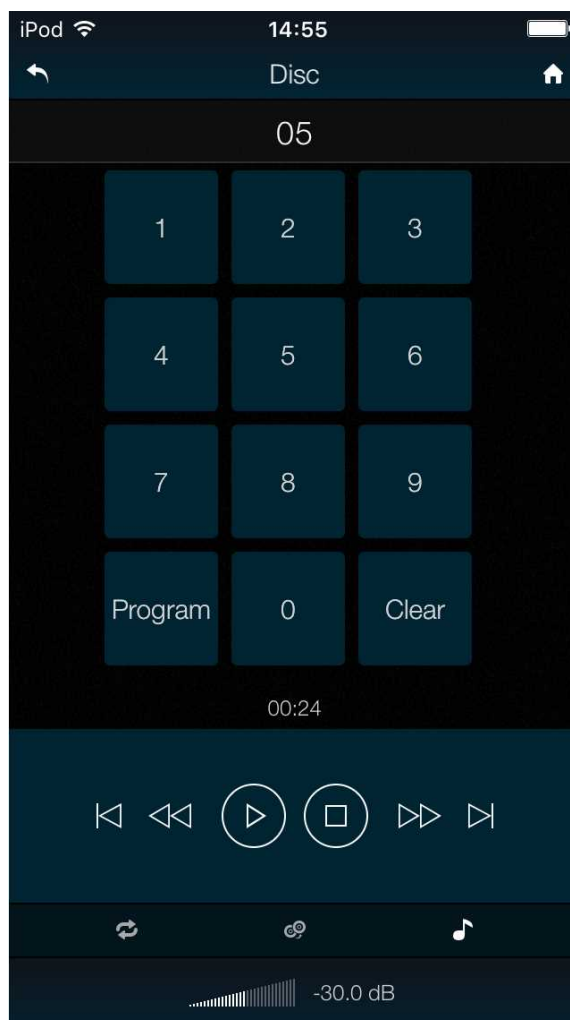


- ・ 演奏をポーズにするには **Play/Pause** を押し、再び演奏するにはもう一度押します。
- ・ 次のトラックに飛ばすか、前のトラックに戻すには、**Fwd** または **Rwd** ボタンを押します。
- ・ 演奏を中止するには **Stop/Eject** ボタンを押します。もう一度押すとトレイが開きます。

[アプリから CD 演奏をコントロールする]



ホームページに行き、ディスク (**Disc**) をタップする。



ヴィヴァルディ 2.0 アプリ、リモートコントロールは、例えばトラック番号の選択、トラックやディスクのリピート、トラック順序のプログラムなど、他の機能へもアクセスできます。

トラック順を 6-8 とプログラムするには、ディスクを停止させて、リモコンの **Program** (プログラム) ボタンを押します。プレイヤーは **PGM Mode, 0PGM0** と表示。一例として、**6** または **06** と押すと、ディスプレイは **6PGM1** と変わります。次に **8** または **08** と押すとディスプレイは **8PGM2** と変更されます。Clear ボタンは最後に入力したトラックの全てをキャンセルします。スタートさせるとプログラムしたトラック順に演奏します。アプリの **Clear** (クリア) ボタンは順序の最後のトラックをキャンセルします。プログラムモードをキャンセルするにはアプリの **Program** (プログラム) ボタンを押すか、CD トレイを開けることでキャンセルできます。



ハイブリッド SACD/CD をロードしたけれど止まった場合には、アプリの **Layer** (レイヤー) 変更 をタップすると CD レイヤーを演奏します。



リピートパッドで、**Repeat Off** (リピート中止) **Repeat Track** (トラックのリピート) **Repeat Disc** (ディスクのリピート) を選びます。

STEP 5 : USB 1インターフェイスとコンピューター

コンピューターソースをご使用にならない場合にはこの項をお読みになる必要はありません。

[互換性]

USBインターフェイスはWindows™ 10, Windows™ 8, Windows™ 7 (SP1), Mac™ OSX(10.5.4 以降のバージョン), PCMデータを送り出すミュージックサーバーと接続することができます。Linux UbuntuベースのサーバーでUSB オーディオクラス 1, クラス 2 インターフェイスを装備している機器とも接続は可能と言われていますが、dCSでは未検証です。動作の保証は致しかねますのでご了承ください。

[USB オーディオクラスを設定する]

本機はUSBオーディオクラス2 を工場出荷時の設定としています。クラス1の選択も可能ですので、どちらかを選択して設定して下さい。

USB オーディオクラス1 : このインターフェイスは96K S/sまでのデータであれば、特別なドライバーなしで動作します。



クラス 1 を選択するには、メニューを開き **Unit Settings > USB Class** と進みます。次の順序でボタンを押します。**Menu, ▶, ▶, Menu, ▶, ▶, ▶** その後、**Menu** ボタンで **Class 1** (クラス 1) のアイコンを選択します。

USBオーディオクラス2 : このインターフェイスは384kS/s(DSD/128 over PCMを含む) までのデータを受け、動作します。

Mac OSX では、v 1 0 . 6 . 3 以降のOSが必要です。

Windows では、dCS USB クラス 2 ドライバー2017 年版がインストールされていなければなりません。(以下をご参照ください)



クラス 2 を選択するには、メニューを開き **Unit Settings > USB Class** と進みます。次の順序でボタンを押します。**Menu, ▶, ▶, Menu, ▶, ▶, ▶** その後、**Menu** ボタンで **Class 2** (クラス 2) のアイコンを選択します。



もし Windows PC に旧バージョンの USB Class 2 ドライバーがインストールされている場合には、それをアンインストールした後、現在のバージョンをインストールしてください。

[Windows 専用ドライバーをインストールする]

- ・もしご使用のWindows PCにASIO4ALL、または他のASIOドライバーがインストールされている場合には、dCS のドライバーが正常に動作するようにアンインストールを行い、削除してください。
- ・プレイヤーがUSBクラス2 に設定されていることを確認します。
- ・プレイヤーとコンピューターの電源を入れます。
- ・プレイヤーの**USB1**ポートをコンピューターのUSBポートと接続します。
- ・dCS ホームページ、<https://www.dcsLtd.co.uk/products/vivaldi-dac/support> へ行き、dCS USB Audio Class 2 Driver 2017 をダウンロードしてください。
- ・ファイルをアンジップし、そのフィアルをラン。
- ・スクリーンの表示に従って作業を進めます。
- ・インストールが完了したら、コンピューターを再起動してください



プレイヤーを USB Audio Class 2 に設定しても、Windows PC にクラス 2 用ドライバーをインストールしていなければ、このインターフェイスは作動しません。

[PC との基本設定]

コンピューターの USB ポートと本機のリアパネル、**USB1** ポートとを結線します。

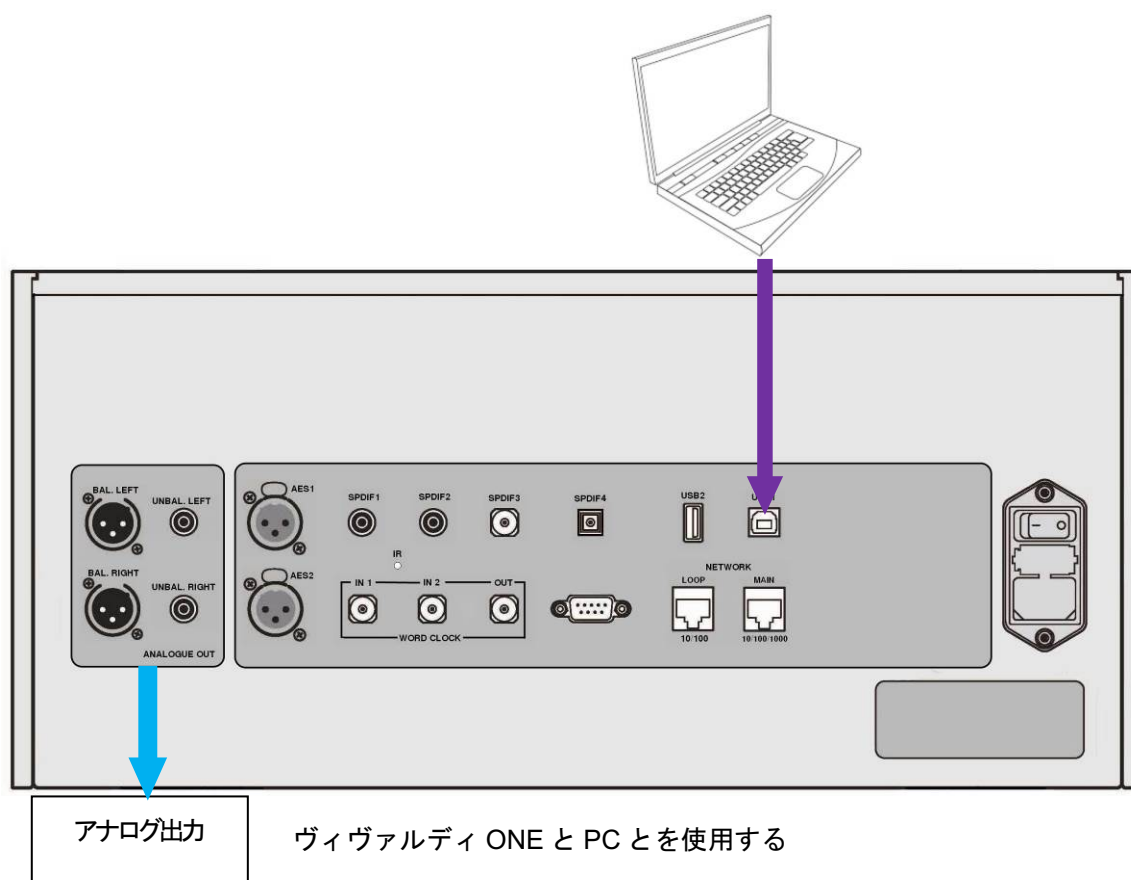


USB1 ポートを選択するには、アプリのホームスクリーン上にあるこのボタンをタップするか、またはフロントパネルの **Input** ボタンをディスプレイに **USB1** と出るまで何回か押します。



もし、このアイコンが表示されなかった場合は、メニューを開き本機の設定を選択以下のように設定します。

Unit Settings > Sync Mode > Master Mode.



[音楽演奏ソフトについて]

Windows™やMac™ OSXシステム上で音楽をかける事が出来るプログラムは無数にありますが、そのすべてがUSBポートに対応するように完全に加工作されているわけではありません。例えば、Windowsメディアプレーヤーはオリジナルのサンプルレートを全て24ビットにリサンプルします。iTunesはOSX Audio MIDIセットアップパネルの中で設定された出力サンプルレートに必要なに応じて変換します。

このように様々なソフトがあり、アップデートも頻繁に行われます。全てのアップデートに対応することは不可能です。ご使用のプログラムがどのように作動するかを正確に調べる事が必要でしょう。問題が発生する場合にはソフトウェア会社へお問合せください。

コンピューターOSに組み込まれた音楽演奏プログラムではなく、洗練されたストリーミングプログラムをご使用になることを推奨いたします。

例えば

- ・ JRiver Media Center (Windows, Mac 双方で利用できます)
- ・ Audirvana (Mac のみ)

[ヴィヴァルディ ONEをオーディオ出力デバイスに]

プログラムによって音楽再生する際に、コンピューターがヴィヴァルディONEを自動的に選択しない場合があります。次の操作で補正できます。

[Mac™ OSX]

Finder を開き、**Go** タブをクリックし、アプリケーション > **Utilities** > **Audio MIDI Set up** を選択します。左側のリストの中から最初の **dCS Vivaldi One USB ...** を選択し右クリックします。ドロップダウンリストから「**Use this device for sound output**」を選択。フォーマットを **384000.0Hz** に設定し、**2ch-24bit Integer** に設定。 **Audio MIDI Setup** を閉じます。

[Windows 10™ Windows™8.1, Windows™ 7]

ヴィヴァルディ ONE を接続し、電源を入れます。 **Control Panel>Sound** と進みます。再生パネルの中で、 **dCS Vivaldi One** または **dCS Vivaldi One Audio** を右クリック、 **Set as Default Communication Device** を選択します。 **Enhancements** タブをクリックし、 **Disable all enhancements** にチェックを入れます。ドロップダウンボックスから **Advanced** タブを選択し **24 bit, 192000 Hz (Studio Quality)** を選択します。 **Exclusive Mode**, の下のボックス二つをチェックし、 **OK** をクリックし、もう一度、 **OK** をクリックして **Sound** パネルを閉じます。

ストリーミングプログラムを開いて、 **Options**、または **Preferences** パネルから **Vivaldi One** を選択し、音楽を演奏します。



もし、 **USB 1** 入力が反応しないで PC が見つからない場合、原因は USB ファームウェアが損傷されていることかも知れません。USB 接続が完全では無い、トラック演奏中に外れていた場合などに起こり得ることです。USB ケーブルを外し、 **Unit Settings > USB Class** で設定を変更します。そして、元に戻ってから USB ケーブルを再度接続します。通常、これで問題は解決します。

STEP 6 : USB 2入力を使用する

[USBフラッシュドライブから音楽ファイルを演奏する]

FAT16, FAT32 フォーマット化された、または暗号化されていないNTFS のフラッシュドライブまたはローパワーUSB HDD から音楽ファイルを演奏することが出来ます

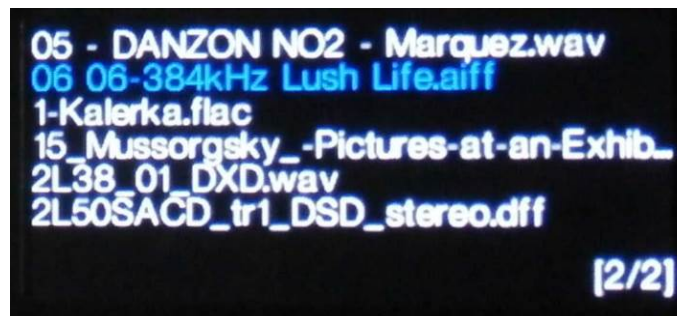
- ・ドライブを**USB2**ポートと接続します。



ネットワーク二法レイヤーが接続されたら、Vivaldi 2.0 アプリによってフラッシュドライブから再生コントロールができます。ホームページに行き、USB オプションを選択して、次に NAS ドライブから選択するのと同様にトラックを選択します。 詳細は **STEP 2** の通りです。

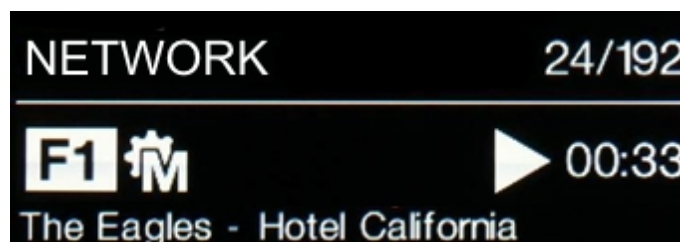
それとは別に、以下のようにしてフロントパネルからもファイルを選んで演奏することもできます。

- ・ **Menu** ボタンを2秒ほど押し続けてブラウザを開きます。ドライブの容量によっては**Please Wait**と数秒表示されるかもしれません。次にドライブ名称が表示されます。**Menu** ボタンを押します。
- ・ ルートフォルダーの中にあるファイルとフォルダーがディスプレイに表示されます。ブルーのハイライトを▶ と ◀ ボタンで操作します。(ブルーのハイライトはカーソルで、次のトラックを演奏し始める時には動きません)



- ・ **Menu** (メニュー) ボタンを押して、ファイルの演奏を開始するか、またはサブフォルダーに入ります。
- ・ フォルダーの構成をバックアップするためのナビゲーションが必要ならば、**Stop/Eject** (ストップボタン) を押します。
- ・ **Power** (パワー) ボタンを押してブラウザを閉じます。

フロントパネルのコントロールは通常に戻ります。トラック名称、プレイアイコン、トラック進行時間が表示されます。



ヴィヴァルディONEはフラッシュドライブの中にあるフォルダ内のファイルをその順番で全て演奏し、停止します。

- ・ フロントパネル、またはリモコンの**Previous Track, Next Track, Play/Pause** と **Stop/Eject** (前トラック、次トラック、プレイ/ポーズ、ストップ/イジェクト) ボタンによって演奏をコントロール出来ます。
- ・ 異なるディレクトリや演奏を再スタートするにはブラウザを再び開きます。



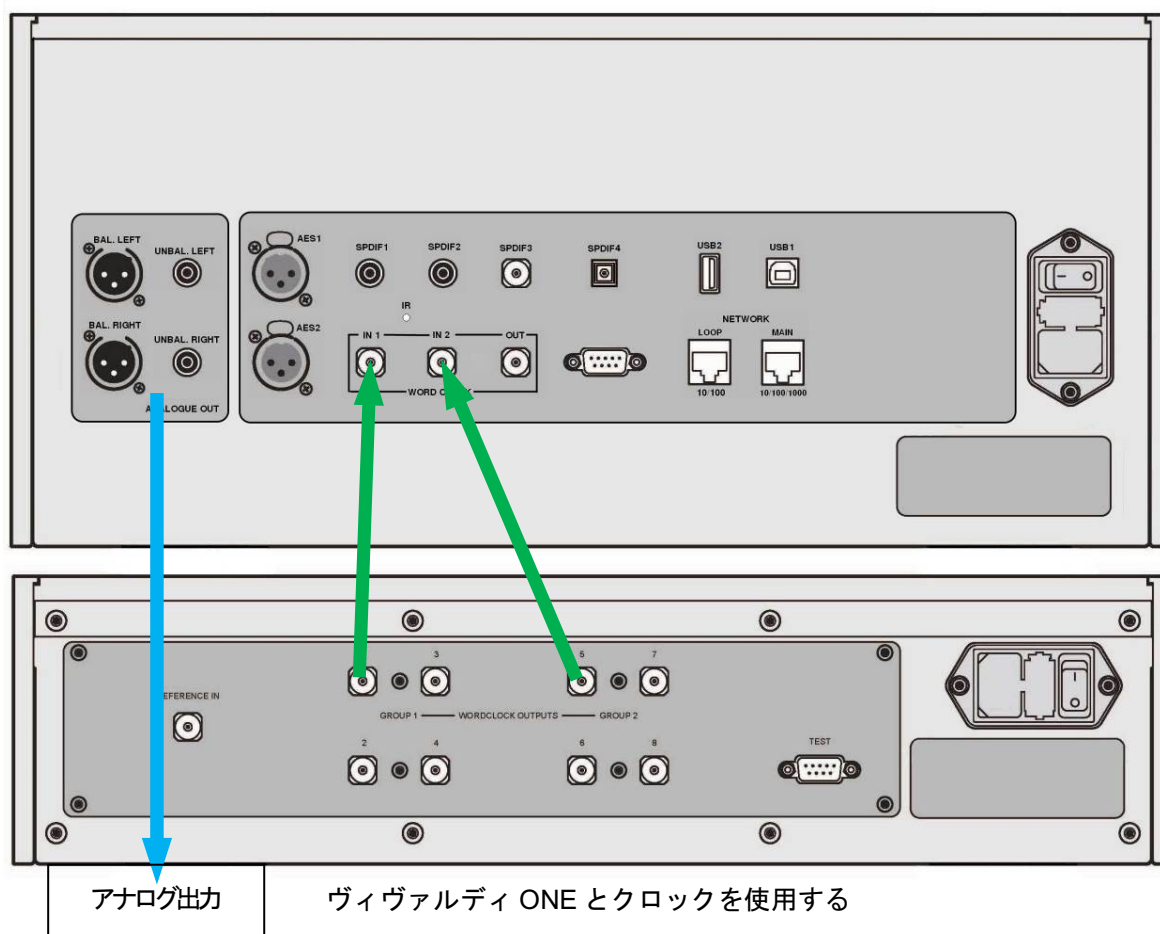
USB2 ポートは USB HDD またはモバイルデバイスをチャージするために+5V DC、最大 2.1A のパワーを供給します。

STEP 7 : クロッキング

この段階でシステムはオーディオソースから発せられるクロックとロックしている (Audio sync) か、または、CD プレイバックでマスターモードとなっているか、ネットワーク、USB インターフェイスとエイシンクロノスというように設定されています。これが一番シンプルな設定です。とは言っても、クロックジッターの問題があり、必ずしも本機の性能を 100%引き出しているとは言えません。

[ヴィヴァルディックロックを使用する]

ヴィヴァルディマスタークロックを追加することによって、音質はさらに向上します。



- ・ ヴィヴァルディ ONE の **Input** (入力) ボタンによってクロックとロックさせたい入力を選択します。通常、ネットワーク、USB1 またはディスクモードです。
- ・ ヴィヴァルディックロックの電源を入れ、グループ 1 を 44.1kHz、グループ 2 を 48kHz に設定します。
- ・ **Wordclock Output 1**(クロックの出力 1)とヴィヴァルディ ONE の **Wordclock Input 1** (クロック入力 1) とを接続します。同様に **Wordclock Output 5**(クロックの出力 5)とヴィヴァルディ ONE の **Wordclock Input 2** (クロック入力 2) を接続します。



ヴィヴァルディ ONE の設定を行います。まず、メニューページから **Unit Settings > Sync Mode** と進み、**Wordclock 1-2 Auto** (クロック 1-2 自動) と設定して、システムが再度ロックするようにします。W1, W2 のアイコンがディスプレイに表示されます。

- ・ 音楽を演奏します。

ヴィヴァルディックロックは 44.1kHz, 48kHz のワードクロックを、どの有効なサンプルレートが届いてもロックしたままの状態に保つために、同時に供給します。



AES か SPDIF 入力をマスタークロックとロックした場合、ソース機器 (例えば、CD プレイヤー) は同じマスタークロックとロックされていなければなりません。そうになっていなければ、クリック音が一定間隔で、また欠落、ノイズ、ひずみが出力に現れてきます。ソース機器にクロック入力が無い場合は本機のソース機器との入力については、**Sync Mode** (シンクロモード) を **Audio** (オーディオ) に設定します。

よりシンプルなシステムとしては、ロッシーニマスタークロックも使用できます

[提案]

- ・ ヴィヴァルディONEで、DSD, DSD x2 アップサンプリングステージをPCM オーバーサンプリングの最終段階に加える場合には、メニューページから**Unit Settings > Upsampling** (設定/アップサンプリング) に行き、**DSD, D×D, DSD×2** (P45参照) のどれかに決定します。この機能は本機がPCMデータを受け取った時にのみ、動作します。
- ・ ヴィヴァルディ、またはロッシーニマスタークロックを使用する場合には、ディザ機能をお試しください。(クロックの取扱説明書を参照)

[入力構成をカスタマイズする]

ヴィヴァルディONEの入力はコンピューターのターミナルエミュレータープログラムを動作させることで、システムに応じて名前を付けることが出来ます。Windows PCでTeraTermを使用する手順を紹介します。

他のプログラム、例えば PuTTYやZTermも使用可能です。もしその件についての設定が困難な場合には専門家に問い合わせ下さい。

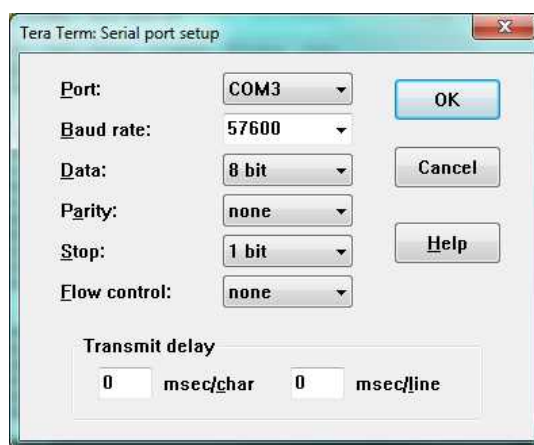
- ・ ヴィヴァルディONEとWindows™ PCを起動します。
- ・ 以下のサイトから TeraTermをダウンロードし、PCにインストールします。(リンクがない場合には、Tera Term onlineの最新バージョンを探して下さい。)

<http://en.sourceforge.jp/projects/ttssh2/releases/>



ヴィヴァルディONEの設定を(**Unit Settings > RS232**)とすすみ、メニューページの**T**ext オプションに設定します。

- ・ USB-to-RS232 アダプターケーブルで本機の**Test**ポートとPCのUSBポートを接続します。
- ・ ttempro.exe または他のターミナルプログラムをランします。
- ・ シリアル (**Serial**) ボタンをクリックするとTera Termは本機に接続されたポートを自動的に選択します。**OK**をクリック。
- ・ **Setup>Serial Port**をクリックします。以下のようにBaud Rateを**57600**にパネルをセットして**OK**をクリックします。



ターミナル ウィンドウで、コマンドをタイプします。**NAME n = newname**
 この中で、**n** は以下のリストにある標準的な名称と関連しています。

AES1	0	AES2	1	AES1+2	2	SPDIF1	6
SPDIF2	7	SPDIF3	8	SPDIF4	9	USB1	11

また**newname** はインプットにご使用になりたい名称を自由に設定できます。例えば、DVD、TV、COMPUTERなど A-Zまでの大文字、番号0-9 または + - = / . : ? ! @ & によって8文字まで入力できます。

- ・ **Enter** キーを押します。

一例

- SPDIF1**入力の名称をDVDにしたい場合は、**NAME 6=DVD**とタイプして、Enterキーを押します。
- USB1**入力をCOMPUTERとしたい場合には、**NAME 11=COMPUTER**とタイプしてEnterキーを押します。

NETWORKと**DISC**モードは名称変更できません。

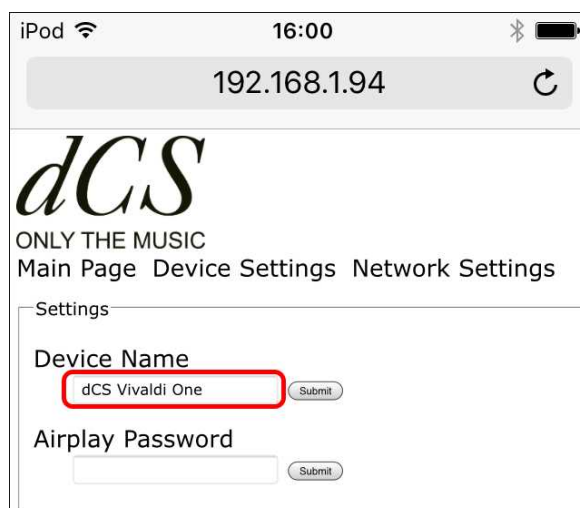


標準名称に戻したい時には、(例えば**AES1**, **SPDIF1**, など) メニューページから **Configuration > Reset Input Names** と進みます。その際に入力されていた名称は削除されます。

[ヴィヴァルディ ONE の名称]

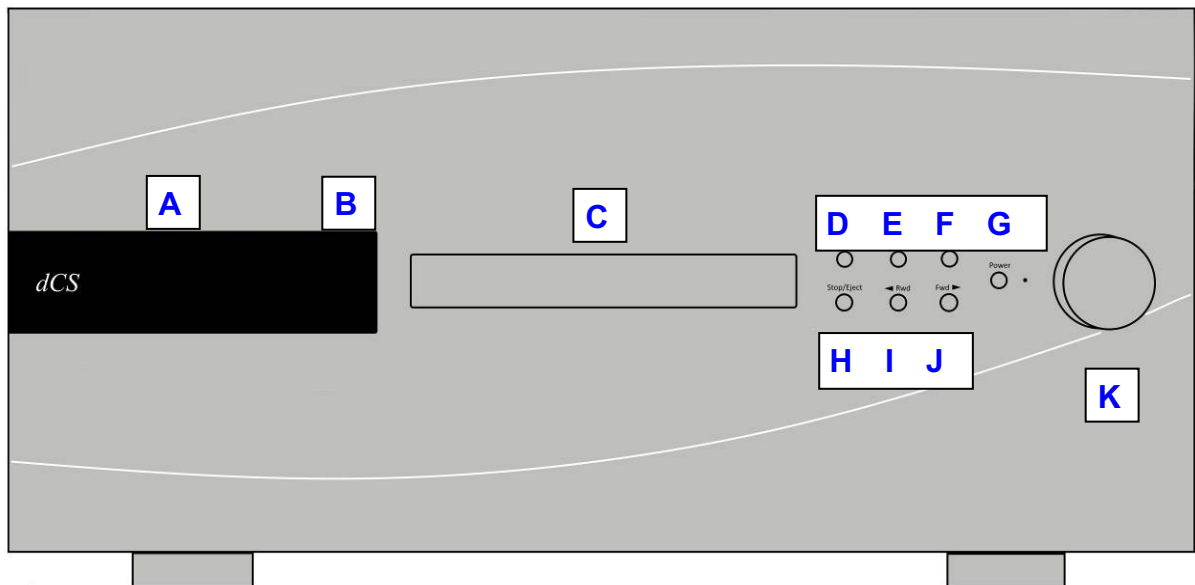
同位置ネットワーク上で複数のヴィヴァルディ ONE を識別する時には、それぞれのヴィヴァルディ ONE を以下のように名付けることができます。

- ・ PC, タブレット、iPhone のどれかとヴィヴァルディ ONE を同一ネットワーク上で繋がします。
- ・ ヴィヴァルディ ONE の **Menu** (メニュー) ボタンを 3 回押します。その IP アドレスを覚えておき、**Power** (パワー) ボタンを軽く押してメニューを閉じます。



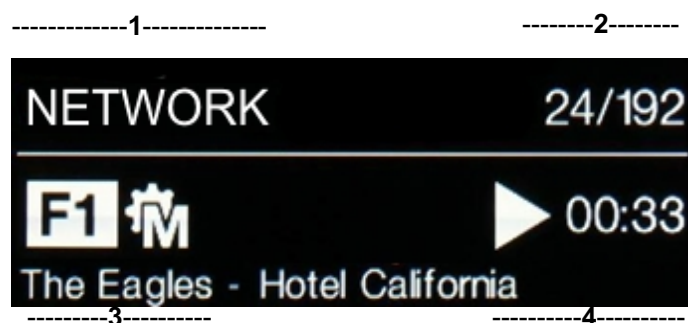
- ・ ウェブブラウザを開きヴィヴァルディ ONE の IP アドレスをアドレスバーに書きます。
- ・ **Device Setting** (デバイス設定) をクリックするかタップします。
- ・ **Device Name** (デバイス名称) をクリックまたはタップし、新しい名称を書き込み、右横の **Submit** をクリック、またはタップします。

フロントパネル



ディスプレイ - ネットワークレンダラー

ネットワークや USB ドライブから音楽を流している時に、ディスプレイ (A) は4つのエリアに分割されます。



エリア 1 : 選択された入力 -NETWORK

エリア 2 : データレート PCM, DSD, または DSDX2 のワードレングスとサンプルレート

エリア 3 : ステータスを表すアイコン

F1	PCM データを受けた時のフィルター設定	F2 <small>DSD</small>	DSD データを受けた時のフィルター設定
🔒	Sync Mode (シンクロソース P44 を参照)	🔒	設定がロックされている
🔄	フェイズが逆相	🔄	チャンネルが入れ替わっている (スワップ)
MQA	MQA フォーマットのデコーディング	MQA.	MQA スタジオフォーマットデータのデコーディング
OFF	ディスプレイ オフ		

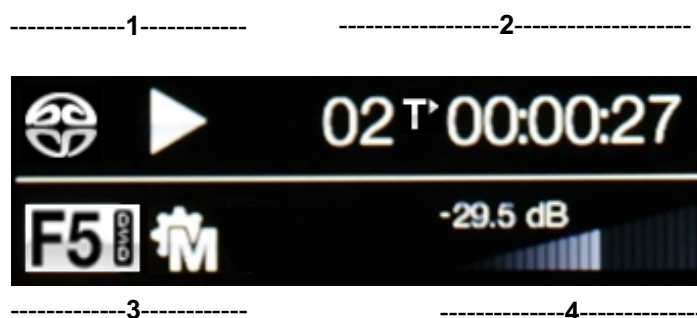
演奏家、トラック名称、またはファイル名称（メタデータのファイルタイプに基づいての名称）がディスプレイの最下部に表示されます。

エリア 4： プレイ・ポーズアイコンと経過したトラック時間。

ボリュームが変更されると、ボリューム設定が大きな文字で数秒間表示されます。

CD/SACD 演奏時のディスプレイ

入力をディスク (DISC) と設定すると、ディスプレイは同様に 4 エリアに分割されます。



エリア 1 シンボルが CD メカニズムの状態を表示します。



SACD 層が選択されています。



CD 層が選択されています。



停止



イジェクト



プレイ



ポーズ



早送り



早戻し

エリア 2 プレイ、またはポーズの時のトラック番号、ディスク総時間（時間、分、秒）が表示されます。トラック番号の次に表示されるアイコンは、時間についての情報を表示しており、リモートディスプレイボタンで設定されます。



経過したトラック時間（今まで演奏されたトラック時間）



経過したディスクの時間（今まで演奏されたディスクの時間）



トラック時間の残量（あと何分でトラックが終わる）



ディスク時間の残量（あと何分でディスクが終わる）

停止した時に、トラック数と総ディスク時間が表示されます。

ディスクがロードされるまでは **NO DISC** と表示。

トラック順序がプログラムされた場合には **xPGMx** と表示され、演奏は停止します。例えば、**8PGM3** という表示は3つのトラックがプログラムされ、最後のトラックは8ということです。

エリア 3 : 状況を示すアイコンが表示され、これらはネットワーク入力に加えて ;



現在のトラックのリピート（アプリ、リモコンによって設定）



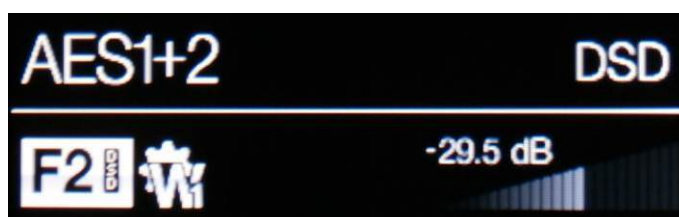
ディスク全体をリピート（アプリ、リモコンによって設定）

エリア 4 : 現在のボリュームレベルの表示。

リモートコントロールによってトラックが選択された場合には、数秒間トラック番号が大きく表示されます。

ディスプレイ DAC モードの場合

デジタル入力のどれか、またはネットワーク入力を選択されていて、動作していない時には、ディスプレイは4つのエリアに分かれます。



エリア 1 : 選択されている入力

エリア 2: データのレート、PCM の場合はワードレングスとサンプルレート、DSD または DSD x 2。

エリア 3 : 現状ステータスアイコンが表示されます。ネットワーク乳リユ置くと同じですが、例外は、



正しくないワードクロックが検知された。

エリア 4 : 現在のボリュームレベルの表示。

詳しいメニューディスプレイはメニューの項（p 39）に書かれています。



どんな LCD ディスプレイも長時間同じイメージを表示しておくと曇っていきます。ディスプレイが必要以上に劣化しないようにするには、演奏を終了したら、スイッチオフするか本機をスリープモードにしておくことをお勧めします。

リモートコントロールレシーバー

リモートコントロールをご使用の場合には一番感度が高い (B) のところに当てるようにしましょう。

ディスクトレイ

CD, SACD 等のディスクをトレイ (C) に載せる時にはラベルを上向きに、トレイの中心部に合わせて、正しく置きます。**Stop/Eject** (停止・イジェクト) ボタンを押すか、または **Play** (プレイ) ボタンによってトレイが閉まります。



本機が DISC モードになっていない時には、CD/SACD メカニズムのコントロールは働きません。DISC モードから DAC モードに変える時には、ディスクをトレイから取り出して、トレイを閉めてください。

コントロールモード

フロントパネルのコントロールは、ヴィヴァルディ ONE の動作モードによって異なります。以下の表のようになります。

MODE							
Disc	Power	Menu	Input	Play/ Pause	Rwd	Fwd	Stop/ Eject
Network	Power	Menu	Input	Play/ Pause	◀ Track	Track ▶	Stop
DAC	Power	Menu	Input	---	---	---	---
Menu	Close	Select	---	---	◀ Menu	Menu ▶	---
USB2 Browser	Close	Select	---	---	Cursor ▲	Cursor ▼	Folder ▲

Stop/Eject (停止、イジェクト) ボタン

ディスクモードで**Stop/Eject** (停止/イジェクト) ボタン(H)を押すとディスクの演奏を停止します。もう一度押すとトレイを開きます、さらにもう一度押すとトレイを閉じます。

Play / Pause (プレイ・ポーズ) ボタン

ディスクが読み取られた後、**Play / Pause** (プレイ・ポーズ) ボタン (D) によって演奏開始をします。演奏後、もう一度押すとポーズになり、更にもう一度押すと演奏をします。

Rwd(巻き戻し)ボタン

ディスク演奏中に **Rwd**(巻き戻し)ボタン(I)を押すと前のトラックを選択します。押し続けるとディスクをジョグします。巻き戻しスピードは2倍、4倍、8倍、と押し続けていると早くなります。

メニューページが開いているとき **Rwd** ボタンは ◀ (戻るボタン) に変わり、メニューページに戻ります。

Fwd (早送り)ボタン

ディスク演奏中に **Fwd** (早送り)ボタン (J) を押すと次のトラックを選択します。押し続けるとディスクをジョグします。早送りのスピードは2倍、4倍、8倍、と押し続けていると早くなります。

メニューページが開いていると、**Fwd** (早送り)ボタンは ▶ (進む)ボタンに変わり、メニューページをめくります。

Input(入力)ボタン

Input (入力) ボタン(E)を何回も押すと入力可能なデジタル入力をその都度表示します。



動作している機器に接続されていない入力端子については入力リストには表示されません。

ソース機器のサンプルレートは自動的に検知されます。順序表示は全部の入力が動作状態にある時は以下ようになります。

..., **Disc**, **NETWORK**, **AES1**, **AES2**, **AES1+2**, **SPDIF1 (RCA)**, **SPDIF2 (RCA)**, **SPDIF3 (BNC)**, **SPDIF4 (Toslink)**, **USB**, ...



デュアル AES がメニューページ (**Unit Settings > Dual AES**) からオフ (**OFF**) にされていると **AES1+2** が使えません。



入力がディスク (**Disc**,) に設定されていないとディスクメカニズムは動作しません。動作しないことで、電気的動作項目が減り、音質も向上します。ディスクモードから入力を変える時にはトレイに載っているディスクを取り出詩、トレイを閉じておくことをお忘れ無く。

Menu（メニュー）ボタン

Menu（メニュー）ボタン（**F**）を押してメニューを開きます、メニューページを選んで設定を変えます。メニューの項を(P40)をご参照ください。

USBフラッシュドライブが **USB2** のポートに指されている時は、メニューボタン（**Menu**）を2秒間押し続けるとブラウザが開きます。

Power（パワー）ボタン（**G**）となっています。

スイッチを入れるには、リアパネルのスイッチがIの位置にあってAC電源が入っていることを確認して下さい。**Power**（パワー）ボタン(G)を一度押すとスイッチが入ります。リモコンからは電源を入れることは出来ません。

ユニットをスリープモードにするには、**Power**（パワー）ボタンを押します。ディスプレイは消えて、ボタンの上にあるLEDが点灯します。メカニズムは停止しますが、ヴィヴァルディ ONE は作動状態と同等の温度を保っています。トレイが開いていれば、自動的に閉まります。通常の作動状態にするにはもう一度 **Power**（パワー）ボタンを押します。

完全にオフにするには **Power**（パワー）ボタンを **SWITCHING OFF** と表示されるまで約5秒間押し続けます。トレイが開いている場合には自動的に閉まります。

ロータリーコントロール

通常ロータリーコントロール(K)は**Volume**(ボリューム)設定に使用します。このセッティングは0dB(フルボリューム)から-50dBまでを0.5dBずつ、-80dBまでは1dBステップで調整し、-80dB以下ではミュートとなります。ボリュームが変更された時には、大きなデシベル表示が数秒表示されます。



Balance(バランス)メニューページが開いている、もしくはリモートの**Balance** (バランス) ボタンが押されている場合には、バランスを調整します。

バランス調整は0.1dBステップでおこなわれ、左右チャンネルどちらも-6.0dBまで下げられます。それ以上はミュートとなります。ボリュームの大きさを示す棒グラフによってバランス設定の状況を視角で捉えられます。



バランス (左)



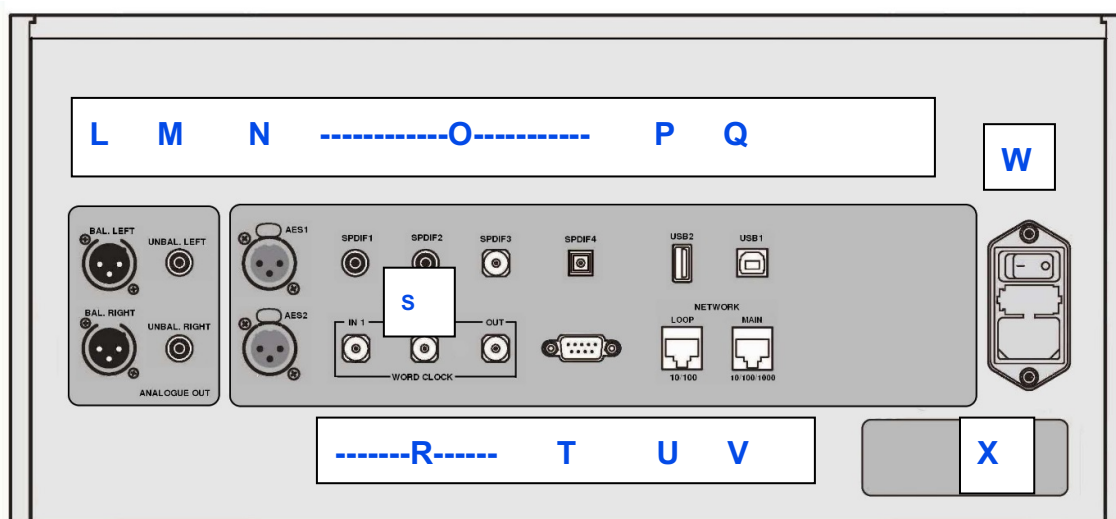
バランス (センター)



バランス (右)

メニューが開いている間、ロータリーコントロールはメニューページを前に進めたり、後に戻したりすることをします。同様に、入力やフィルターを変更して数秒の間、ロータリーコントロールはボリュームの変更ではなくこれらのスクロールとして機能します。

リアパネル

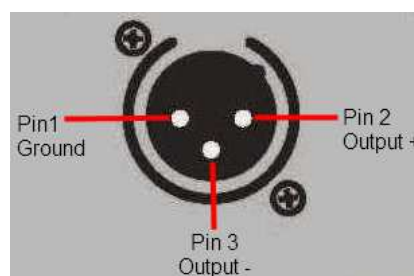


リアパネル

[Analogue Outputs アナログ出力]

ヴィヴァルディONEは独立した**Balanced Outputs**(バランス出力) (L) と **Unbalanced Outputs** (アンバランス出力) (M)を装備しています。上部が左チャンネル出力で下が右チャンネル出力です。

d CSのバランス出力は真のバランス入力に対して接続されるように設計されています。電氣的にバランス回路であり、フローティングですので、オーディオトランスのような働きをします。この優れた点はハムの拒絶率とケーブルから入ってくる諸々の電磁波などの干渉を防ぐ点です。疑似バランスではなく、完全なバランス回路設計のオーディオ機器と接続して下さい。



XLRコネクタを使用しているにもかかわらず、ピン3を浮かして、本当の意味でのバランス回路ではないアンプも見受けられます。このような回路では、XLRケーブルで接続しても良い結果は得られません。ノイズが増えたり、不安定な信号レベルとなったり、うすべったい音になったりするようです。そのようなアンプをご使用の場合には、ケーブルのアンプ側XLRの3ピンと1ピンとを結んでアンバランス出力として使用することをお勧めします。

AES デジタル入力

AES 1、AES2(N) 入力は192k S/sまでのサンプルレートに対し、独立して使用することが出来ます。Dual AESメニューがOnまたはAutoに設定されていれば、AES 1+2 はペアとして使用し88.2、96、176.4、192、352.8、384k S/sのサンプルレートを受け付けます。また、dCSのSACDデータをヴィヴァルディ、スカルラッティ、パガニーニトランスポートから、および DoPデータ(DSD/64またはDSD/128) 受け入れます。



デュアル AES モードが正しく作動するためには、ソースは実際にデュアル AES データを送らなければなりません。シングル AES データを2つのコネクタから送るのでは正しく作動しません。

SPDIF 入力

ヴィヴァルディONEは3系統のコアキシャルSPDIF入力があり、**SPDIF 1**、**SPDIF 2**、**SPDIF 3** (O)と書かれて下り、最大192k S/s, DoP64のデータを受け容れます。光入力はToslink入力(O)ですが、受け容れ可能なサンプルレートは96k S/sまでです。トスリンクをご使用の際にはダストカバーを引き抜いて下さい。

USBインターフェイス

2つのUSBインターフェイス (Q) は完全なるエイシンクロノスモードで動作するので、ヴィヴァルディONEはサウンドサーバーやコンピューターからのクロックジッターに対し免疫性が備わっています。ヴィヴァルディONEは内部クロックを使用するか、または**Wordclock**(ワードクロック)入力に接続されたマスタークロックからのクロック信号を使用します。PCから送られてきたレートで、USBケーブルを通じてフィードバックします。



以下のPCを使用し、一般的なフォーマット何種類かのものを使用して多くのPCMストリーミングプログラムでテストしましたが、全てのソースデバイス、動作システム、ソフトウェアに対しての正しい動作の保証はできかねます。テストしたOS はWindows™ 10、Windows™ 8.1、Windows™ 7 (SP1), Mac™ OSX 10.12.5です。

メニューページの**Unit Settings > USB Class**によってインターフェイスを**Class 1**(クラス1,特別なドライバなしで、96k S/s以下)、または **Class 2**、(クラス 2,384k S/sまで、OSX 10.6.3以降はドライバ不要、ウィンドウズには最新のdCS USB Class 2 が必要です) に対設定できます。

USB2 インターフェイス(P)はタイプAコネクタです。24bit/384k S/s、DSD128までのデータをUSBフラッシュドライブから受け入れます。互換性のあるドライブフォーマットはFAT16、FAT 32、暗号化されていないNTFSです。フラッシュドライブが接続されているときに、ベーシックブラウザ (P 27) は音楽ファイルをナビゲートします。そして、演奏するファイルを選択します。ブラウザを閉じるとファイル名がプレイまたはポーズ アイコン、経過演奏時間とともに表示されます。

同様に、低電力 (10W以下)USBハードディスクドライブまたはSSDドライブも使用できます。

ワードクロック入出力

2系統のワードクロック入力(**Wordclock In**)端子(R)はソース機器またはマスタークロックからの32、44.1、48、88.2、96、176.4、192k Hzの標準ワードクロックを受取ります。クロック周波数はデータレートの正確な倍数でなくてはクロックにロックしません。メニューページの**Unit Settings > Sync mode**によって、選択された入力に外部クロックをロックさせます。ソースは同じクロックにロックされなければなりません。そうしないとシステムはロックされていない状態となり、出力から間隔を置いてクリックノイズが出てきてしまいます。



2系統の **Wordclock In** (ワードクロック入力) は個別にも使用できます。操作を簡単にするためにヴィヴァルディ ONE の **Sync mode** (シンクロモード) メニューページにはオートマティックモードがあります。このモードで、44.1k Hzのワードクロックと **Wordclock In1** (ワードクロック入力1)とを、また 48k Hzを **Wordclock In2**(ワードクロック入力2)とを接続することが出来ます。他のソース機器が同じクロックと接続されていても本機は正しいクロック周波数を選別します

メニューページのシンクロモード(**Sync mode**) でマスターモードに設定されている場合、本機はロックしたデータ、または外部クロック入力 (**Wordclock In**)ではなく、本機内部のクロックを使用します。ワードクロック出力 (**Wordclock Out**)はシングルワイヤーの入力サンプルレートに見合った、44.1または48kHzの周波数によるワードクロックを送り出します。その場合の最大周波数は192k Hzです。選択された入力が**AES** か**SPDIF**の場合には、ソース機器はシステムをロックさせるためにワードクロック出力(**Wordclock Out**)にロックされていなければなりません。

ネットワークインターフェイス

Network Main (ネットワーク接続) にはRJ45ソケット(V)によってヴィヴァルディONEはNASドライブやコンピューターから標準10/100/1000イーサネットネットワークを通じて音楽データストリームを受け容れるUPnPレンダラーとして動作することができます。ヴィヴァルディONEはヴィヴァルディアプリ2.0からのコントロールによって、24bit/384kS/s もしくはDSD64, DSD128の音楽ファイルをストリームします。

アプリは適切なiPad, iPhone、または他のUPnPコントロールポイントによって行います。(p11参照)

もう一つのRJ45(U)**Network Loop** (ネットワークループ接続)は他のdCS機器への10/100イーサネットループスルーのために設けられました。



RJ45ソケットは、デリケートで、他のコネクタ (USBタイプA, Bなど) を誤って挿入したりすると壊れかねません。そのため、使用時以外はダストカバーを取り付けたままにしておくこと、カバーを取ったらすぐにRJ45コネクタケーブルを挿入することをお勧めします。

赤外リモートレシーバー

第二の赤外レシーバー(S)はRS232に取り変わるハウスオートメーションシステムのためにも受けてあります。

RS232

インターフェイス(T)RS232で、2種類の動作モードに対応し、メニューページの **Unit Settings > RS232**によって設定できます。

- dCSにおいて、製品検査する場合、リモートコントロールされる時に使用される2進法モード(**B**)
- ハウスオートメーションシステムで使用する時のテキストモード(**T**)。このモードをご使用になりたい場合、HELPコマンドを送って利用可能なコマンドリストをご覧になってください。

このインターフェイスにはストレートケーブル、ピン1はピン1と接続しているワイヤーを使用してください。

ピンコネクタは次の通り

- ピン2- dCS ユニットトランスミット
- ピン3- dCS ユニットレシーブ
- ピン5-グランド
- シェルケーブルスクリーンとドレイン

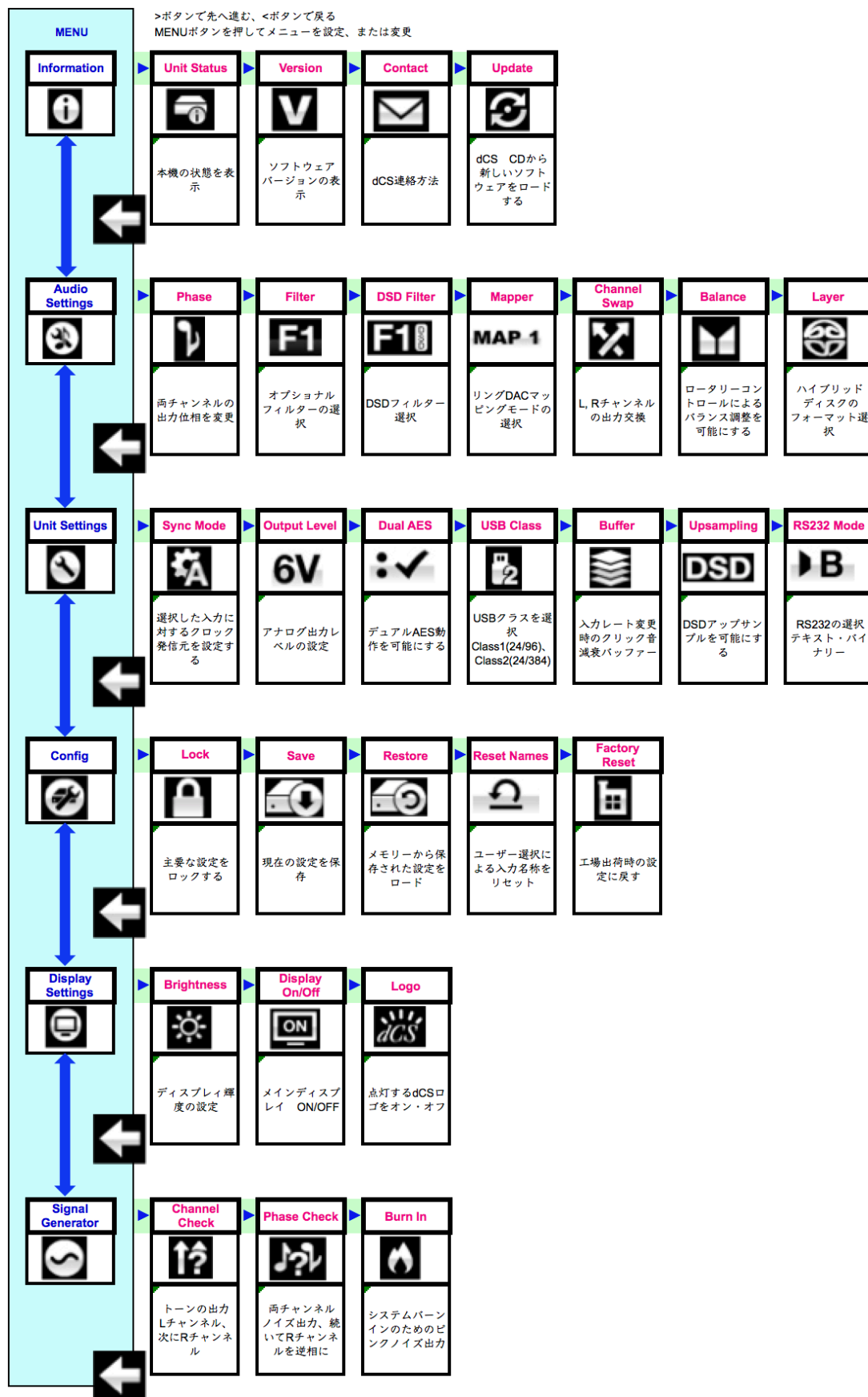
AC入力

ACパワーはICE320コネクタ(W)に接続フューズと2極パワースイッチによって隔離され、保護されています。

ラベル

ラベル(X)にはシリアル番号、使用電圧が表示されています。シリアル番号はお問い合わせ等の際に必要になります。

メニュー



メニューを使う

メニューは様々な機能にアクセスすることが可能です。また新しいバージョンのソフトウェアにアップグレードを行うことによって、新機能を追加することが出来ます。

メニューは4つのボタンでコントロールします。

- ・ メニュー(**Menu**) ボタンでメニューを開く、またはセッティングを選択
- ・ ▶ ボタンによってメニューのページをめくる
- ・ ◀ ボタンによってメニューのページを戻る
- ・ **Power**(パワー)ボタンによってメニューを閉じる、または10秒でタイムアウト
- ・ ヴィヴァルディONEのメニューが開いている間、ロータリーコントロールによってページをめくったり、戻ったりすることができます。



必要なメニューはメニューガイドシートで見つけることができます。

次の6つのアイコンはメニューのトップ項目です。



INFORMATION (インフォメーション) メニュー：セットアップの詳細、ソフトウェアバージョン、シリアル番号、通信先を表示します。



AUDIO SETTINGS (オーディオ設定) メニューによってフロントパネルボタンによって直接アクセスできない機能を設定することができます。



UNIT SETTINGS ご使用のオーディオシステムに適合するように設定します。



CONFIGURATION (コンフィギュレーション) メニューは重要な設定をロック、標準設定を保存、ユニットをリセットすることができます。



DISPLAY SETTINGS (ディスプレイ設定) メニューはディスプレイの調整することができます



信号発信 (**SIGNAL GENERATOR**) メニュー：テスト信号とセットアップをチェックするためのメニュー

▶ ボタンで青いハイライトを移動させて希望するメニューに移動し、**Menu**ボタンで選択します。次のメニューの階層が表示されます。 ▶ ボタンによって希望のメニューページに進み、**Menu**ボタンによって情報、または設定変更が表示されます。



前のメニューに戻るためのアイコン

INFORMATION (情報) メニュー

[使用機器の現状]



Unit Status (使用機器の現状) を表示

- ・ ハードウェアのコードを含むフルシリアル番号。
- ・ 本機の名称
- ・ 内部温度。(摂氏)
- ・ ネットワークに接続した場合には、本機の IP アドレス
- ・ 各クロック入力で検知される周波数
- ・ それぞれの入力で検知されるサンプルレート
- ・ MQA データに関しては、最終的にレンダリングされるサンプルレート

◀▶ ボタンでスクロールします。このページはタイムアウトしません。退出するにはメニューボタン(Menu)を押します。



もしシステム操作がご希望と異なっている場合、**Unit Status** (ユニット状況) ページが設定エラーや接続エラーなどを発見するのに役立ちます。

[バージョン]



Version ページ： ソフトウェアバージョンを表示。販売店などにお問い合わせの崔にはここからの情報をお伝え下さい。

- ・ コントロールボード(Control Board): 1.1x (メインソフトウェア バージョン)
- ・ フロントパネル(Front Panel) : 1.1x
- ・ インターフェイスボード (Interface Board) : 1.1x
- ・ ネットワーク (Network): ネットワークファームウェア製造コード

このページはタイムアウトしません。退出するにはメニュー(**Menu**)ボタンを押します。

[コンタクト]



Contact ページ： dCS ホームページのコンタクトサイトと e-mail アドレス。このページはタイムアウトしません。退出するにはメニュー(**Menu**)ボタンを押します。

[アップデート]



ヴィヴァルディ ONE はヴィヴァルディアプリ v2.0 (p55 参照) を使用してインターネットからアップデートできるように開発されております。以下が最も簡単な方法です。

もう一つの方法として、最新のメインソフト、ディスプレイソフトを CD もしくは USB1 インターフェイス経由のファイルからアップデートが可能です。アップデートディスク、ファイルをの説明を良くお読みの上、アップデートしてください。

Update: アップデート機能は本機がディスクモードになっていない、もしくは 44.1k S/s のレートでデータを受けていない場合には、アップデートモードは機能しませんのでご注意ください。アップデートソフトウェアについては、メーカーから発表があり次第、当社ホームページでお知らせいたします。



誤ってアップデートをスタートさせてしまった場合でもご心配なく。本機は自動的にアップデートソフトウェアを受け取っていないと判断して、アップデートプロセスから退出します。内部ソフトウェアは変更されません。



インターフェイスボードやネットワークボードはアップデートされませんので、アップデート機能はプレイヤーには推奨いたしません。古アップデートを行うには、アップサンプラーをインターネットに接続し、コントロールアプリによって次のように進んでください。 **Information > Version > Check for Updates feature.**

オーディオ設定メニュー

[フェイズ（位相）]



アナログ出力フェイズを変換する場合には、このページで行います。このアイコンは正相で出力していることを示しています。



極性が反転します。録音時のエラーで絶対位相が逆相になっている場合にこのページでアナログ出力位相を反転させます。フェイズはパワーアップ時には正相で立ち上がります。

[フィルター]



ヴィヴァルディONEはデジタルフィルターを2セット登録しています。PCMデータ用とDSDデータ用です。PCMフィルターは本機がPCMデータを受け取っている時、もしくはCD演奏時に使用できます。基本的に、フィルターはリスナーの感性によって選んでいただきたいと思います。



ヴィヴァルディONEは各サンプルレートに対して最後に設定されたフィルターを記憶します。



PCMモードでは最初の4つのフィルターはナイキストイメージ除去と位相反応との関係で長所、短所があります。**Filter 1** は最高度の不要なナイキストイメージ除去と急峻なロールオフを備えています。そのため、過渡特性が4種類の中ではもっとも犠牲になっています。フィルター2, 3, 4は進むに従ってよりゆったりした拒絶反応ですが、逆に進むに従って過渡特性は良くなっていきます。一般的に申し上げられる点は、**Filter 2** はオーケストラ、**Filter 3**, **Filter 4** はロック、ポップをお聞きになる方に好まれているということです



ソースデータが176.4、192、352.8、384 kS/s の場合には更にもう2つのフィルターが用意されています。**Filter 5**はガウシアン反応（トランジェントではオーバーシュートは無く、ロールオフはゆるく設定）

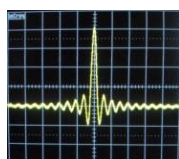


Filter 6 は、新しいシャープなフィルターで、プレリングングがほとんど無いタイプです。



MQA フォーマットデータを受信してデコーディングする場合には、他の6つのフィルタに加えてフィルタ M1 を選択することができます。これは、MQA の推奨フィルターです。MQA フィルター設定は、エクストラのサンプル・レートとして扱われ、別途保管されています。

44.1k S/s PCM の6 種類のフィルター特性は以下の通りです。(他のサンプルレート用フィルターは異なるパルス反応を示します) 水平時間軸は1目盛り100 μ 秒となっています。



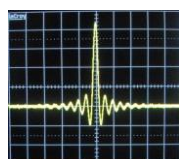
Filter 1



Filter 2



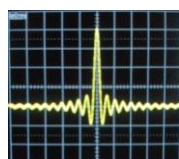
Filter 3



Filter 4



Filter 5



Filter 6

[DSDフィルター]



DSDフィルターはDSDデータ、もしくはDSDアップサンプリング機能が働いている時に使用できます。PCMデータをDSDまたはDSDx2にアップサンプリングしている時に、2つのフィルターが動作しますが、PCM フィルターのみがディスプレイに表示されます。



DSDモードでは5種類のフィルターがありますが、1ビットに特有の可聴帯域外のノイズレベルの減衰を行うものです。標準の**Filter 1** は広帯域のフィルターで、DSD64においては90 kHzからロールオフが始まります。従って、帯域外ノイズも高くなります。ご使用のオーディオシステムで高音域がきつくて耳障りでしたら、**Filter 2** か**Filter 3** をお試しください。



これらは順次帯域外ノイズを減らしていきますが、その代償は高域です。**Filter 4**はトラブルシューティング用に設けているフィルターで、音楽観賞用ではありません。これはDSD64 の場合、25k Hzで急峻に高域をカットし、帯域外ノイズを最低限にしています。



Filter 5 は減衰がゆるいカーブになり、従ってロールオフ周波数が高域までゆっくりと減衰し、スムーズな位相反応が得られます。このフィルターの利点は帯域外ノイズの大部分を排除する点です。

[マッパー（ランダムイザー）]

マッパー(**Mapper**) Ring DAC コアの部分にデータを振り分ける方法をマッパーがコントロールします。3つのオプションが用意されています。

MAP 1

Map 1 は新開発されたもので出荷時に標準設定されたマッパーです。5.644 または6.14MHz のスピードで動作します。

MAP 2

Map 2 は伝統的な設計でヴィジュアルディDACの 1.xx バージョンに使用されています。dCSでは20年以上にわたりこのマッパーを採用しています。2.822 または3.07MHzで動作しています。

MAP 3

Map 3 は実験的なもので、スピードはMAP 1と同じです。

dCS における試聴では**Map 1**が最も音楽的な再生を行うと感じておりますが、3種類を試聴して一番お気に入りのMapper に設定してください。

[チャンネルスワップ(出力チャンネルを交換します)]



これは出力チャンネルがノーマルの場合。



チャンネルが交換された場合。接続ミスの発見に便利です。チャンネルチェック機能(**Channel Check**)には影響しません。

[バランス]



ロータリーコントロールで各チャンネルとも0 dBから-6dBの範囲で、0.1dB ステップのバランス調整ができます。6dB 以下ではミュート ($-\infty$) となります。バランス調整はメニューページを閉じる、またはメニュー(**Menu**) ボタンを押すと終了します。多くのユーザーの方々はヴィジュアルディ 2.0アプリによってバランス調整を行っているとのことです。

[レイヤー]



ハイブリッドディスクが挿入されて、演奏されていない状態では、**Layer** (レイヤー) ページでは**SACD**レイヤーか



または**CD**レイヤーの選択ができます。レイヤーを変更して再度読み取っている間、**Changing Layer - Please Wait**と表示されます。

ヴィヴァルディONEの設定

以下の設定は一度設定すれば、その後の変更は行わないと思います。

Sync Mode (クロックキング シンクロモード)

このページは選択されているデジタルクロック入力を表示します。ヴィヴァルディONEはCDモードとは別に各デジタル入力に対しての**Sync Mode**(シンクロ)設定を記憶します。

オプションは以下の通り。



ヴィヴァルディONEは接続されたデジタル入力からのデータストリームからクロック信号を抽出し、そのクロック信号にロックします。これは、接続ソース機器にクロック入力端子がない場合に使用します。この設定ではジッターなどにより最良のパフォーマンスは得られません。なお、**USB**と**Network** (ネットワーク) 入力またはディスクモード (**Disc**) では**Audio Sync** に設定はできません。



CD演奏する場合やエィシンクロノスUSBまたは **Network** (ネットワーク) 入力使用時について、外部クロックを使用しない場合には、このマスターモードが標準の設定となります。ヴィヴァルディONEは内部クロックによって内部DACをコントロール、データパケットを処理します。この状態では、ヴィヴァルディONEはソースデバイスとして動作しています。

AES, SPDIF入力をマスターモードで使用する場合、ヴィヴァルディONEはまた、DACをコントロールするために自身の内部クロックを使用します。同時に、ワードクロック出力端子 (**Wordclock Out**) からそのクロック信号を出力します。

マスターモードを正しく作動させるためには、ソース機器のワードクロック入力端子はヴィヴァルディONEのワードクロック出力端子 (**Wordclock Out**) とロックさせなければいけません。ソース機器はヴィヴァルディONEと同期し、同一の正しいクロックレートで動作します。

Wordclock 1-2 Auto (ワードクロック 1-2 オート)



ヴィヴァルディ クロック、ロッシーニ クロックを使用して、データレートがよく変更されるコンピューターオーディオシステムを使用するときの便利な設定です。クロック入力端子 1 (**Wordclock In1**) を44.1、 88.2、176.4kHz のいずれかに設定したクロックの出力端子と接続、クロック入力端子2 (**Wordclock In2**) は48、96、192 kHz に設定したクロックとを接続します。アップサンプラーのクロック接続も同様に。サンプルレートが変わったとき、DAC, アップサンプラーとも自動的にデータと同期するワードクロック周波数を選択します。

入力データのサンプルレートが変更した時、ヴィヴァルディONEは自動的にデータと同期するワードクロック周波数を選択します。選択されたワードクロック入力ディスプレイに表示されます。



Wordclock 1 (ワードクロック入力1) : ヴィヴァルディONEはワードクロック入力 1 (**Wordclock In1**) に接続している外部クロックとロックしている状態。



Wordclock 2 (ワードクロック入力1) : ヴィヴァルディONEはワードクロック入力 1 (**Wordclock In2**) に接続している外部クロックとロックしている状態。



選択されたAESまたはSPDIF入力のデータと同期しているワードクロックを発見できない場合、オーディオシンクロモード (**Audio**)に戻り、クロックが違います(Bad Clock) というアイコンが赤く表示されます。

[出力レベル]

6V

2V

0.6V

0.2V

6V, **2V**, **0.6V** or **0.2V** rmsのフルスケール出力レベルを設定します。システムをセットする際に、ヴィヴァルディONEの出力設定によって通常のリスニングレベルに合った出力を設定して下さい。

その場合のボリュームレベルの目安は-10dB~-30dBの間で、聞きやすいボリュームレベルということです。この2_の設定の差は約10dBです。

低レベル0.6vや0.2vは、AirPlayを使用しプリアンプを介さずにヴィヴァルディONEとアンプを直結した場合、送り出し機のボリュームレベルが高く想定外のボリュームレベルが送られた場合の事故を防ぐために設定しました。

[Dual AES]

AES1と**AES2**とを一緒に使用し、PCM_データを高次サンプルレート(88.2, 96, 176.4, 192, 352.8 or 384kS/s)、またはDSD64, DSD128で受け取るためのものです。ソース機器によっては2系統のAES出力がデュアルAESとして作動しないものもありますのでご注意ください。



Off (オフ) : デュアルAESモード解除。AES入力×2はシングルAES_データを受け取ります。



On(オン) : 入力ボタン、リモコンによるデュアルAESモードのフロントパネルボタンかリモートコントローラーによるマニュアル設定。



Auto(オート) : ヴィヴァルディONEはフォーマットフラッグを検知し、自動的に**AES1**、**AES2**の入力でシングルAESかデュアルAESかを判断します。これが標準設定です。フォーマットデータのフラッグが悪い場合、マニュアルで正しい設定を選択して下さい。

[USB クラス]



Class 1 (クラス 1) に設定。Mac™OS10.5 以降、Windows PC でサンプルレート 96k S/s 以下の場合に使用可能。



Class 2 (クラス 2) に設定。Mac™OS10.6 以降でサンプルレート 384k S/s 以下の場合に使用可能。 Windows PC の場合には dCS USB クラス 2 ドライバーによるインストールが必要です。

USB クラス変更した場合には USB ソフトウェアがロードされている間 10 秒ほどかかります。



本機がクラス 2(**Class 2**)に設定されていて適切なドライバーがロードされていない場合には、クラス 1 インターフェイスは Windows PC によって検知されません。

USB Class(クラス)設定の変更を行う前に、演奏を中止し、ストリーミングプログラムを終了することを推奨します。

[バッファ]



Buffer (バッファ) を **On**(オン)に設定すると、デジタルデータはリング DAC に遅延して届きます。これは標準設定です。遅延は 44.1k S/s_の場合は、0.72 秒、192k S/s の場合には 0.16 秒です。この遅延によって DAC はサンプルレートやクロック周波数の変更を認識し、変更が確認されるまでミュート状態にします。それによって変更時のノイズが非常に低いレベルに抑えられました。



この遅延は音楽再生の場合には全く問題ありませんが、本機がビデオやテレビに使用されている場合には、音声と映像がシンクロしないという問題が発生しかねません。その場合には **Buffer** (バッファ) を **Off** (オフ) にします。

[アップサンプリング]



DSD に設定すると本機は PCM オーバーサンプリング課程の最終段階で DSD アップサンプリングステージを、アナログ変換前に行います。



DSDx2 に設定すると本機は PCM オーバーサンプリング課程の最終段階で DSDx2 アップサンプリングステージを、アナログ変換前に行います。



DXD に設定すると本機は PCM データの標準オーバーサンプリングを行います。この機能は DSD データには応用されません。DSD データは異なった方法で処理されます。

[RS 232]



RS232 インターフェイスをサードパーティーコントロールシステムの **T**ext(テキスト)モード、または.....



...dCS **B**inary(バイナリー)モードに設定。なお、バイナリーモードは dCS 工場での使用を目的としたものです。

コンフィギュレーション メニュー

[設定ロック]



Locked(ロック)を設定した場合、このアイコンが表示され、以下の設定変更ができなくなります。

- **Mapper** (マッパー)
- **Sync Mode** (全ての入力)
- **Output Level**
- **Dual AES**
- **Ch Swap**
- **Balance**
- **DSD Filter**
- **USB Class**
- **Save Configuration** はできなくなります。
- **Restore Configuration** はできなくなります。
- **Factory Reset** はできなくなります。



Unlocked (アンロック) 設定変更が必要な場合にアンロックします。

[コンフィギュレーションの保存]



お望みの通りに設定された場合、**Save**(保存)を選択することで、設定をメモリーに保存できます。後で設定を変更したい、そしてそれを保存したいときには、再び **Save** を選択すれば、変更を保存します。

[修復]



ユニット設定が間違っていて変更された場合には、**Restore** (修復)を選択することによってその前に保存した設定を再びロードできます。

[入力名称のリセット]



入力名称が変更された場合、このページで名称をリセット、オリジナルの名称、例えば AES1、SPDIF などに戻されます。

[工場出荷時設定にリセット]



出荷時の標準設定に戻します。

- **Volume** : **-30dB**.
- **Balance** : 中心
- **Input** : **Disc**.
- **Sync**(シンクロ) : すべての入力 **Audio**(オーディオ)にシンクロします。例外は以下
- **Disc, USB1, USB2, Network** は **Wordclock Auto (W)**にシンクロします。
- **PCM Filter** :すべてのサンプルレートに対して **Filter 1**
- **DSD Filter** : **1**
- **Mapper** (マッパー設定) : **Map1**.
- **Dual AES1+2** (デュアル AES 設定) : **Auto**.
- **Phase** (位相) : **Normal**. (正相)
- **Output Level** (出力レベル) : **2V**.
- **Display** (ディスプレイ) : **On**.
- **Brightness** (ディスプレイ輝度) : 最大
- **RS232 Mode** : バイナリー (**B**)
- **Ch Swap** (チャンネル交替) : **Normal**(正常)
- **Buffer** (バッファ) : **On**
- **Upsampling** (アップサンプリング) : **DSD**
- **Logo** (ロゴ) : **On**

ディスプレイ設定メニュー

[輝度]



Brightness（ディスプレイ輝度設定） ◀ ▶ ボタン操作によって好みの輝度に調整することができます。メニュー(**Menu**)ボタンを押すことで退出。

[ディスプレイのオン・オフ]



このページは通常 **On**(オン)に設定されています。



Off(オフ)に設定しメニューを閉じた場合には、ディスプレイは数秒後に消されます。コントロール設定を変更した場合には、ディスプレイは一時的に点灯します。ディスプレイが開いている時、または、メニューが開いている時はディスプレイは点灯します。

[ロゴのオン・オフ]



ロゴを **On**(オン)に設定するとディスプレイ左の dCS ロゴが点灯。



Off(オフ)にすると、ロゴは光りません。

発信メニュー

[チャンネルチェック]



チャンネルが正しく接続されているかをチェックします。ディスプレイに **Left Channel** と表示されている間は、左チャンネルから発信音が出力されます。 **Right Channel** と表示されれば右チャンネルから発信音が出力されます。逆のチャンネルから発振音が聞こえた場合には接続がどこかで間違っていることが分かります。

[フェイズチェック]



位相が正相か逆相かをチェックします。 **In Phase** と表示されている間は、両チャンネルとも正相でチェックトーンが出力されます。メニュー(**Menu**)ボタンを押すことによって、右チャンネルの位相が逆相となります。ディスプレイは **Out Phase**(逆相)と表示します。最初の発信音はスピーカーの中央に音が集まり、次の発信は中央に集まりません。(逆相) 発信音がおかしい場合には片方のチャンネルが逆相になっています。 **Power** ボタン(パワー)でテストを終了します。

[バーンイン]



システム全体のバーンイン。（エージングと同じ意味ですがここではバーンインとします）ディスプレイは**Burn In**（バーンイン）、**Warning Loud!**(音圧注意) **Press any button to quit** (それ化のボタンを押して終了)と表示します。その後、ピンクノイズを発振し、レベルがゆっくりと上下します。どれかのボタンを押してこのテストを終了し、メニューに戻します。



ボリュームレベルが適切なレベルに設定してからバーンインを行ってください。不用意に **Burn In**(バーンイン)を行ってアンプやスピーカーを損傷してもdCS, 当社は保証いたしませんのでご了承ください。

dCS リモートコントローラー

(Vivaldi ONE /Vivaldi DAC / Rossini Player 共通)

バッテリーを装備する

1. リモート裏側のバッテリーカバーを下方方向にスライド。
2. 2本の単3電池(アルカリ電池を推奨)を用意。+、-の方向を間違えないように装着する。
3. バッテリーカバーをスライドさせてカバーを閉じる。

使用法

機器がスリープモードの状態から使用できます。パワーボタンを押すと、機器が使用状態となります。パワーボタンを2秒押し続けることで、機器はスリープモードに入ります。4秒押し続けると完全にシャットオフとなります。コマンドが送られている間にパワーボタン下のLEDが点滅します。

DAC In: DAC, プレイヤーに接続されている入力を選択します。

Filter: プレイヤー、DACのフィルターを変更します。フィルターは選択したときのサンプルレートによって記憶されます。

Mute: プレイヤー、DACの出力をオン/オフにします。

Phase: プレイヤー、DACのアナログ出力の絶対位相を反転します。

UPS In: アップサンプラーに接続されている入力を選択します。

UPS Out: アップサンプラーの出力サンプルレートを変換します。

ロータリーコントロールはプレイヤー、DACのボリューム設定です。

プレイ、ポーズ、早送り、巻き戻し、停止ボタンはプレイヤー、トランスポートのフロントパネルと同じコマンドです。

0 - 9 ボタンは演奏するトラックを選択します。例えば、トラック5を演奏したい場合には5または05を押します。

Repeat/Program ボタンを押すとトラックまたはディスク演奏のリピートとなります。

Repeat/Program ボタンを数秒押すことで、プログラムモードをオン/オフにします。0 - 9のボタンを使ってトラック順序を決めます。Display/Clear ボタンを押し続けると最後に選択したトラックを演奏順番から外します。

Display/Clear ボタンを軽く押すことで、ディスプレイモードを変更します。Rossini プレイヤーについてはこのスイッチはディスプレイのオン/オフとなります。その他のdCSトランスポート、プレイヤーについてはこのボタンはディスプレイの時間コードを変更します。

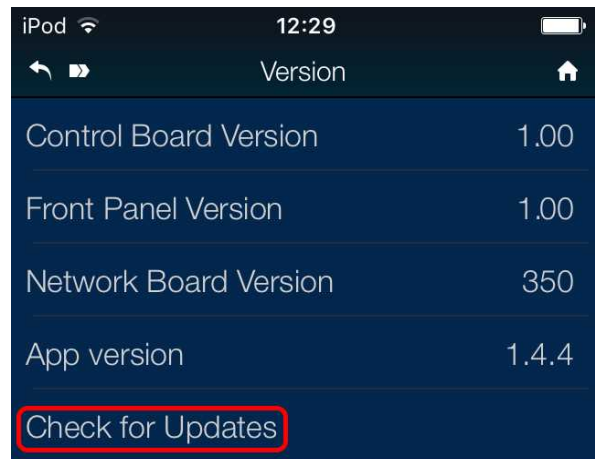
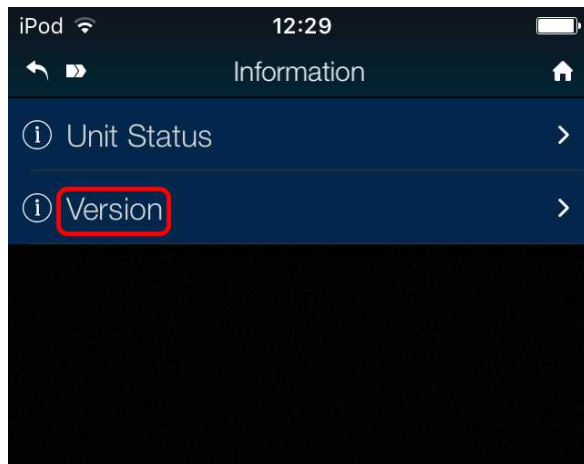
バッテリーについての注意：バッテリーはバッテリー格納部の通りに正しく装着してください。正しく挿入しないとリモートを破損する恐れもあり、保証の対象外となります。バッテリーは一種類タイプ、ブランドのものをそろえてご使用ください。長期間バッテリーを装着したままにしないでください。また、書とさせることも禁物です。バッテリー装着時は、木元から遠ざけて行ってください。また、お子様の手に届かぬ位置にバッテリーを置いてください。

バッテリーの装着、取扱が正しくない場合にはリモートを破損することも考えられます。それに起因する故障、破損の保証は対象外です。

ソフトウェアアップデート

ヴィヴァルディONEはヴィヴァルディ2.0アプリを使ってインターネット経由でのアップデートが可能です。コンフィギュレーション から次のようにタップしてください。**Configuration > Information > Version > Check for Updates** アップデートが用意されている場合、プロンプトに従って操作し、行程が完全に行われるまでお待ちください。

インターネットアクセスの無いお客様はアップデートディスクもご希望によってご用意いたしますので当社へお問い合わせください。その際、メニューから情報ページを開いて(**Information > Version**)アップデートが必要かどうかを確認するために **Control Board**(コントロールボード)バージョンをご確認ください。ディスクからはコントロールボードとフロントパネルソフトウェアのみがアップデート可能です。ネットワークに接続をご希望でしたら、ネットワークファームウェアはインターネット経由でアップデートしなければなりません。



SPECIFICATION

Converter type	<i>dCS</i> proprietary <i>Ring DAC</i> ™ topology.
Mechanism type	Dual laser CD / SACD mechanism.
Digital inputs	<p>UPnP Network interface on an RJ45 connector streams music files from a NAS or local computer over an Ethernet network. Supported file formats are:</p> <ul style="list-style-type: none"> • FLAC, AIFF & WAV – up to 24 bit PCM at 44.1, 48, 88.2, 96, 176.4, 192, 352.8 or 384kS/s. • ALAC – up to 24 bit PCM at 44.1, 48, 88.2, 96, 176.4 & 192kS/s. • AAC, MP3, WMA & OGG - up to 24 bit PCM at 44.1 or 48kS/s. • DFF, DSF & DoP – DSD/64 & DSD/128 <p>Supports various Online Streaming Services.</p> <p>The interface will accept audio data streamed from a suitable mobile device via Apple AirPlay at 44.1 or 48kS/s, also Android devices running UPnP software.</p> <p>The Network interface operates in Asynchronous mode.</p> <p>USB1 interface on a B-type connector, will accept up to 24 bit PCM at:</p> <ul style="list-style-type: none"> • 44.1, 48, 88.2 or 96kS/s when set to USB Class 1 (no driver required). • 44.1, 48, 88.2, 96, 176.4, 192, 352.8 or 384kS/s when set to USB Class 2 (no special driver is required for OSX 10.6.3 onwards, load the latest <i>dCS</i> USB Class 2 driver for Windows). • In USB Class 2, passes through DSD/64 & DSD/128 in DoP format. <p>The USB1 interface operates in Asynchronous USB 2.0 mode.</p> <p>USB2 interface on A-type connector, streams audio files from a USB Flash Drive up to 24 bit PCM at 44.1, 48, 88.2, 96, 176.4, 192, 352.8 or 384kS/s or DSD/64 or DSD/128. Compatible file formats are listed in the UPnP Network interface section above. Compatible drive formats are FAT16, FAT32 or non-encrypted NTFS.</p> <p>The USB2 interface operates in Asynchronous USB 2.0 mode.</p> <p>2x AES/EBU on 3-pin female XLR connectors.</p> <p>Each input will accept up to 24 bit PCM at 44.1, 48, 88.2, 96, 176.4 or 192kS/s</p>

	<div>or DSD/64 in DoP format,</div> <div>OR</div> <div>used as a Dual AES pair at 88.2, 96, 176.4, 192, 352.8 or 384kS/s or <i>dCS</i>-encrypted DSD or DSD/64 & DSD/128 in DoP format.</div>
	<div>3x SPDIF on 2x RCA Phono and 1x BNC connectors. Each will accept up to 24 bit PCM at 44.1, 48, 88.2, 96, 176.4 or 192kS/s or DSD/64 in DoP format.</div>
	<div>1x SPDIF optical on a Toslink connector, will accept up to 24 bit PCM at 44.1, 48, 88.2 or 96kS/s.</div>
<div>Clocking</div>	<div>2x Wordclock Inputs on 2x BNC connectors, accept standard wordclock at 44.1, 48, 88.2, 96, 176.4 or 192kHz. The data rate can be the same as the clock rate or an exact multiple (0.25x, 0.5x, 1x, 2x, 4x, 8x) of the clock rate. Sensitive to TTL levels.</div> <div>Wordclock Output on 1x BNC connector. In Master mode, a TTL-compatible wordclock appears on this output, not temperature compensated. The frequency is 44.1kHz when in Disc mode. In DAC mode, the frequency is either 44.1 or 48kHz, depending in the incoming data rate.</div>
<div>MQA</div>	<div>Full decoding and rendering of MQA data from the Network and USB2 inputs. Final rendering of unfolded MQA data only from the other inputs.</div>
<div>Frequency response (set to Filter 1)</div>	<div><div><div>Fs = 44.1kS/s & CD</div><div>+/-0.1dB, 10Hz to 20kHz</div></div><div><div>Fs = 48kS/s</div><div>+/-0.1dB, 10Hz to 20kHz</div></div><div><div>Fs = 88.2 or 96kS/s</div><div>+/-0.1dB, 10Hz to 20kHz</div><div>-3dB @ >38kHz</div></div><div><div>Fs = 176.4 or 192kS/s</div><div>+/-0.1dB, 10Hz to 20kHz</div><div>-3dB @ >67kHz</div></div><div><div>Fs = 352.8 or 384kS/s</div><div>+/-0.1dB, 10Hz to 20kHz</div><div>-3dB @ >100kHz</div></div><div><div>DSD/64 & SACD</div><div>+/-0.1dB, 10Hz to 20kHz</div><div>-3dB @ >90kHz</div></div><div><div>DSD/128</div><div>+/-0.1dB, 10Hz to 20kHz</div><div>-3dB @ >100kHz</div></div></div>
<div>Residual noise (6V output setting)</div>	<div>CD playback: Better than -96dB0, 20Hz - 20kHz unweighted.</div> <div>24-bit data: Better than -113dB0, 20Hz - 20kHz unweighted.</div>

DSD upsampling	Optional 1-bit 2.822 / 3.07MS/s or 5.644 / 6.14MS/s upsampling (set in the menu) to supplement the multi-stage PCM oversampling.
Spurious responses	Better than –105dB0, 20Hz - 20kHz.
L-R crosstalk	Better than –115dB0, 20Hz - 20kHz.
Output levels	6V, 2V, 0.6V or 0.2V rms on all outputs for a full-scale input, set in the menu.
Balanced outputs	1 stereo pair on 2x 3-pin male XLR connectors (pin 2 = hot, pin 3 = cold). These outputs are electronically balanced and floating, the signal balance ratio at 1kHz is better than 40dB. Output impedance is 3Ω, maximum load is 600Ω (a 10kΩ - 100kΩ load is recommended).
Unbalanced outputs	1 stereo pair on 2x RCA Phono connectors. Output impedance is 52Ω, maximum load is 600Ω (a 10kΩ - 100kΩ load is recommended).
Size and weight	444mm (17.5") wide x 435mm (17.2") deep x 222mm (8.8") high. Allow extra depth for cable connectors. Allow space for air flow around the unit. 27.4kg (60.4lbs) for anodised finish, 28kg (61.7lbs) for optional finish.
Power requirements	Internally set to either 100, 115/120, 220 or 230/240V AC, 50/60Hz. Power consumption: 40W typical, 60W maximum. Consumes less than 0.5W when powered down from the front panel.

このスペックは予告されずに改良のため変更されることがあります。

問い合わせ先

株式会社太陽インターナショナル

〒103-0027

東京都中央区日本橋2-12-9 日本橋グレイス 1F

TEL : 03-6225-2777 (代表)

03-6225-2779 (サービス課)

FAX : 03-6225-2778

ホームページ : <http://www.taiyo-international.com>